

〈会議資料〉

平成23年度

第1回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館

(平成23年7月13日)

平成23年度（第1回）練馬区立美術館運営協議会 資料目次

1	練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
2	練馬区立美術館運営協議会条例	2
3	平成22年度 事業報告	
	(1) 展覧会事業	
	①平成22年度 展覧会事業日程および観覧者数	3
	②平成22年度 企画展・コレクション展関連事業	5
	③平成22年度 広報活動と反響	7
	(2) 教育普及事業	
	①平成22年度 教育普及事業実績	11
	②平成22年度 博物館実習実績	16
	③平成22年度 美術館サポーター活動実績	17
	(3) 美術作品の収集事業	
	①美術作品の収蔵状況	18
	②平成22年度 美術作品取得状況	19
	③平成22年度 収蔵品貸出一覧	28
	④平成22年度 美術館収蔵品データベースに対する反響	29
	(4) 施設利用状況	
	①平成22年度 施設利用状況	30
	(5) 東日本大震災への対応	31
4	平成23年度 事業計画	
	(1) 展覧会事業	
	①平成23年度 展覧会事業日程（案）	32
	②PLATFORM2011 浜田涼・小林耕平・鮫島大輔 ― 距離をはかる ―	33
	③うす羽の幻想 鏑木昌弥展	34
	④N+N展2011 生命をみつめる	35
	⑤磯江毅＝グスタボ・イソエ ― マドリッド・リアリズムの異才	36
	⑥生誕130年 松岡映丘―日本の雅―「やまと絵」復興のトップランナー	37
	⑦特集展示スクラッチボードの第一人者 滝瀬 源一展	38
	⑧特集展示 昭和初期のサラリーマン・コレクター 森井荷十コレクション展	39
	⑨特別展 中村正義―日本画壇の風雲児、新たなる全貌(仮称)	40
	(2) 教育普及事業	
	①平成23年度 教育普及事業計画（案）	41
5	今後の展覧会について	43
6	練馬区立美術館キャッチフレーズ、ロゴ・マークについて	45

第13期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

平成 23 年 7 月 13 日現在

		氏 名	役 職	
学識経験者	会 長	栗 津 則 雄	文芸評論家	
	副会長	高 橋 幸 次	日大芸術学部美術学科教授	
	委 員	青 木 茂	文星芸術大学教授	
	委 員	伊豆井 秀 一	埼玉県立近代美術館 専門員兼学芸員	
	委 員	榎 本 光 生	版画家	
	委 員	大 橋 皓 也	洋画家	
	委 員	小 原 キ ク	洋画家	
	委 員	草 薙 奈津子	平塚市美術館長	
	委 員	佐 藤 康 宏	東京大学教授	
	委 員	島 田 紘 一 呂	彫刻家	
	委 員	松 本 透	東京国立近代美術館副館長	
練馬区議会 議員	委 員	福 沢 剛	区議会議員	
	委 員	原 ふ み こ	区議会議員	
	委 員	し も だ 玲	区議会議員	
	委 員	こうらい啓一郎	区議会議員	
学校教育関 係者	委 員	田 中 隆 史	三原台中学校長	
	委 員	赤 川 浩 之	下石神井小学校教諭	
社会教育関 係者	委 員	伊 藤 定 夫	練馬文化の会代表	

練馬区立美術館運営協議会条例

昭和 60 年 10 月 8 日

条例第 45 号

(設置)

第 1 条 練馬区立美術館(以下「美術館」という。)の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(定数)

第 2 条 協議会は、委員 23 人以内をもって組織する。

(委員)

第 3 条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、練馬区教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者 16 人以内
- (2) 練馬区議会議員 4 人以内
- (3) 学校教育および社会教育関係者 3 人以内

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第 5 条 協議会に会長および副会長を各 1 人置く。

- 2 会長および副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議長は、会長が務める。
- 4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(庶務)

第 7 条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(委任)

第 8 条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区教育委員会規則で定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

平成22年度 展覧会事業日程および観覧者数

① 企画展

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
4月3日(土) ～4月14日(水)	N+N2010 春の嵐:日藝美術出身の若手作家たちの今 共催 日本大学芸術学部美術学科	10	1,203 (120)	1,203 (120)	100.0%
4月21日(水) ～5月30日(日)	PLATFORM2010 寺田真由美一不在の部屋/若林砂絵子一平面の空間	35	1,814 (52)	1,814 (52)	100.0%
7月25日(日) ～9月5日(日)	タブロオ・マシン(図画機械) 一中村宏の絵画と模型	37	6,500 (176)	3,190 (86)	49.1%
9月14日(火) ～10月24日(日)	稲垣仲静・稔次郎兄弟展 共催 日本経済新聞社	36	20,000 (556)	7,094 (197)	35.5%
10月31日(日) ～12月23日 (木・祝)	練馬区立美術館開館25周年記念 芸術家の家 大沢昌助と父・三之助展 (同時開催)人間風景へのまなざし—絵画と写真— —小野具定・成視二人展 後援 (社)日本建築学会 協賛 サントリーホールディングス株式会社 大日本印刷株式会社 助成 芸術文化振興基金	46	8,000 (174)	3,416 (74)	42.7%
2月23日(水) ～4月10日(日)	鹿島茂コレクション1 グランヴィル—19世紀フランス幻想版画 共催 読売新聞社 後援 フランス大使館	34	5,300 (156)	9,324 (274)	175.9%
合 計		188	42,817 (228)	26,041 (139)	60.8%
前年度		195		21,057 (108)	前年度比 123.7%

② 2階常設展示室によるコレクション展

*観覧者数は、同時開催の企画展がある場合はその観覧者数、ない場合は受付の入館者数から

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
4月21日(水) ～5月30日(日)	版画コレクション 柄澤齊と菊池伶司	35	1,814 (52)	1,814 (52)	100.0%
6月4日(金) ～7月19日(月・祝)	特集展示 毛利武彦の軌跡展	40	8,000 (200)	4,939 (123)	61.7%
9月14日(火) ～10月24日(日)	コレクション紹介展示 初公開! 池大雅の水墨山水画展	36	20,000 (556)	7,094 (197)	35.5%
1月4日(火) ～2月15日(火)	没後40年 路傍の聖者—宮芳平展	37	4,300 (116)	8,176 (221)	190.1%
合 計		148	34,114 (231)	22,023 (149)	64.6%
前年度		235		25,409 (108)	前年度比 86.7%

企画展・コレクション展観客数(実数)比較	21年度	22年度	前年度比
	31,424	39,156	124.6%

③ 各種展覧会

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者実数 (1日当り)	
6月4日(金) ～6月13日(日)	第56回練馬区美術家協会展	9	1,611 (179)	
1月15日(土) ～1月19日(水)	中学校生徒作品展	4	1,852 (463)	
1月22日(土) ～1月27日(木)	小学校連合図工展	5	8,532 (1,706)	
1月29日(土) ～1月30日(日)	小・中学校連合書初め展	2	11,365 (5,683)	
2月5日(土) ～2月15日(火)	第42回練馬区民美術展	9	2,807 (312)	
合 計		29	26,167 (902)	前年度比 94.8%
前年度		29	27,608 (952)	

総入館者数比較	21年度	22年度	前年度比
	66,929	73,223	109.4%

平成 22 年度 企画展・コレクション展関連事業

1 N+N2010 春の嵐:日藝美術出身の若手作家の今

(平成 22 年 4 月 3 日～4 月 14 日)

- | | | |
|---------------------|-------|------|
| (1) 出品作家によるギャラリートーク | 計 1 回 | 80 人 |
| (2) 出品作家によるシンポジウム | 計 1 回 | 55 人 |

2 PLATFORM2010 寺田真由美—不在の部屋／若林砂絵子—平面の空間

(平成 22 年 4 月 21 日～5 月 30 日)

- | | | |
|------------------------|-------|------|
| (1) 飯沢耕太郎氏と寺田真由美氏による対談 | 計 1 回 | 19 人 |
| (2) 寺田真由美氏によるアーティストトーク | 計 1 回 | 52 人 |
| (3) 杉田敦氏による講演会 | 計 1 回 | 17 人 |
| (4) コンサート | 計 1 回 | 45 人 |
| (5) 小学生対象ワークショップ | 計 1 回 | 6 人 |
| (6) 鑑賞プログラム | 計 1 回 | 6 人 |

3 版画コレクション 柄澤齊と菊池伶司

(平成 22 年 4 月 21 日～5 月 30 日)

なし

4 特集展示「毛利武彦の軌跡展」

(平成 22 年 6 月 4 日～7 月 19 日)

- | | | |
|----------------------------------|-------|-------|
| (1) 内田あぐり氏、山本直彰氏と、学芸員によるギャラリートーク | 計 2 回 | 158 人 |
|----------------------------------|-------|-------|

5 タブロオ・マシン(図面機械)—中村宏の絵画と模型

(平成 22 年 7 月 25 日～9 月 5 日)

- | | | |
|-----------------------|-------|-------|
| (1) 作家と学芸員によるギャラリートーク | 計 3 回 | 213 人 |
| (2) 関連ワークショップ | 計 2 回 | 17 人 |
| (3) 鑑賞プログラム | 計 4 回 | 27 人 |

6 稲垣仲静・稔次郎兄弟展

(平成 22 年 9 月 14 日～10 月 24 日)

- | | | |
|--------------------|-------|------|
| (1) 諸山正則氏によるゲストトーク | 計 1 回 | 45 人 |
| (2) 学芸員によるギャラリートーク | 計 2 回 | 76 人 |

コレクション逸点紹介 初公開！池大雅の水墨山水画展

(平成 22 年 9 月 14 日～10 月 24 日)

- | | | |
|-----------------------------------------|-------|------|
| (1) コンサート(五味康祐氏コレクションのピアノ・バーゼンドルファーによる) | 計 1 回 | 70 人 |
|-----------------------------------------|-------|------|

7 開館 25 周年記念 芸術家の家 大沢昌助と父三之助展

(平成 22 年 10 月 31 日～12 月 23 日)

- | | | |
|--------------------------------|-----|-----|
| (1) 大沢泰夫氏(大沢昌助のご子息)によるスペシャルトーク | 計1回 | 70人 |
| (2) 学芸員によるギャラリートーク | 計5回 | 73人 |
| (3) 紙映画上映会 | 計1回 | 53人 |

8 人間風景へのまなざし—絵画と写真 小野具定・成視二人展

(平成 22 年 10 月 31 日～12 月 23 日)

- | | | |
|--------------------------|-----|-----|
| (1) 小野成視氏と学芸員によるギャラリートーク | 計2回 | 27人 |
|--------------------------|-----|-----|

9 没後40年 路傍の聖者—宮芳平展

(平成 23 年 2 月 21 日～3 月 28 日)

- | | | |
|--------------------|-----|-----|
| (1) 学芸員によるギャラリートーク | 計2回 | 65人 |
|--------------------|-----|-----|

10 鹿島茂コレクション1 グランヴィル—19世紀フランス幻想版画

(平成 23 年 2 月 23 日～4 月 10 日)

- | | | |
|------------------------|-----|------|
| (1) 鹿島茂講演会 | 計1回 | 80人 |
| (2) 高階秀爾講演会 | 計1回 | 中止 |
| (3) コンサート | 計1回 | 155人 |
| (4) 関連講座(エッチング体験) | 計2回 | 15人 |
| (5) 美術講座(美術館のポスターデザイン) | 計1回 | 中止 |

参加者計 22 年度 1, 424人
(21 年度 1, 810人)

平成 22 年度 広報活動と反響

1. 広報活動の取り組み

《方針》多様な媒体を利用し、周知・集客に努める。

コレクションを使った常設展(小規模展)の広報も積極的に行う。

①展覧会のチラシ・ポスターの印刷

②「美術館ニュース」の発行(年 1 回)

①②は全国美術館、関係者、区内施設等に発送
展覧会のポスターは、町会掲示板にも掲出依頼

③美術館ホームページ

中村宏展(平成 22 年度)の際、展覧会のホームページを外部に制作委託。
平成 23 年 7 月からブログ開始。
ホームページ内の収蔵作品データベースへの年間アクセス数は819, 514件。

④マスコミへの情報発信

新聞・雑誌・地域コミュニティ紙・ウェブサイト等にプレスリリースを発信し、主に掲載料無料のものを利用している。

22 年度の稲垣兄弟展、グランヴィル展で美術関係の PR 会社にリリース配信を委託。

⑤練馬駅ステーションメディア(平成 22 年度で終了)

練馬駅 1 階の電光掲示板の放映枠を確保し、展覧会情報や休館情報を提供。

⑥交通広告

年間を通して中村橋駅に案内看板を設置。
企画展覧会によってポスターの駅貼りや車内まど上広告等。

⑦新聞広告

平成 22 年度は 3 回掲載。(大沢親子展)
(グランヴィル展は予定していたが、中止)

⑧テレビ広告

30秒スポット広告投入(大沢親子展) 平成22年11月3日～21日 20本

⑨試行的な取り組み

バナー広告 PLATFORM2010 展(平成 22 年度)のみ実施。Tokyo Art Beat(WEB サイト)に掲載
ぐるっとパス 平成 23 年度から

ADカード グランヴィル展(平成 22 年度)のみ実施

ミュージーボン 平成 22 年 12 月 2 日から

朝日新聞無料招待券 (22 年度)中村宏展、大沢親子展、(23 年度)PLATFORM2011 で実施

2. 平成 22 年度展覧会に対する反響

(1) N+N 展 2010 春の嵐 日藝美術出身の若手作家たちの今 (平成 22 年 4 月 3 日～14 日)

新美術新聞	4 月 1 日	かっせ	4 月号
ブロンズネット	Web		

(2) PLATFORM2011 (平成 22 年 4 月 21 日～5 月 30 日)

朝日新聞	4 月 28 日	東京新聞	4 月 28 日
港区政新聞	5 月 1 日	ギャラリー	2010. Vol.4
美術の窓	5 月号	美術手帖	6 月号
ばど	5 月 7 日号	池袋 15'	4 月号
かっせ	4 月号	光が丘 NOW	5-6 月号
荻窪百点	273 号	展覧会へ行こう！(WEB)	

(3) 「毛利武彦の軌跡」展 (平成 22 年 6 月 4 日～7 月 19 日)

東京新聞	6 月 22 日	日経新聞	6 月 19 日
毎日新聞	6 月 2 日	東京新聞	6 月 17 日
朝日新聞	6 月 16 日、23 日	読売新聞	6 月 30 日、7 月 6 日
新美術新聞	6 月 1 日	都政新報	6 月 29 日
ギャラリー	5 月号	美術の窓	6 月号、7 月号
かっせ	7 月号		

(4) タブロオ・マシン(図画機械)ー中村宏の絵画と模型 (平成 22 年 7 月 25 日～9 月 5 日)

朝日新聞	8 月 4 日、18 日	毎日新聞	8 月 18 日
港区政新聞	8 月 1 日	美術の窓	8 月号、9 月号
芸術新潮	8 月号	ギャラリー	8 月号
展覧会ガイド	8 月号	ぴあ	8 月 26 日発売号
池袋 15'	8 月号、9 月号	光が丘 NOW	7-8 月号
かっせ	7 月号、8 月号		

(5) 稲垣仲静・稔次郎兄弟展 (平成 22 年 9 月 14 日～10 月 24 日)

NHK 日曜美術館	5 月 23 日		
テレビ東京系『美の巨人たち』	9 月 25 日		
J-COM『Home Town ねりま にいざ わこう』	9 月 26 日～10 月 2 日		
TOKYO FM『Blue Ocean』	10 月 11 日		
TOKYO FM『東京カウンスル』	10 月 15 日		
毎日新聞	10 月 12 日	産経新聞	10 月 19 日
日経新聞	9 月 6 日、9 日、19 日、10 月 7 日、17 日		
朝日新聞	9 月 8 日	東京新聞	9 月 16 日

生涯教育新聞	8月30日	美じょん新報	132号
美術の窓	10月号	展覧会ガイド	9月号
モーストリークラシック	11月号	装道	10月号
ぴあ	9/22号	定年時代	10月上旬号
日経23+(プラス)	9月26日	かつせ	9月号、10月号
池袋15'	9月号、10月号	光が丘NOW	9-10月号
月刊武州路		プチぶんか村	10・11月号
カロンズネット(WEB)		ReENTA taste(リエンタテイスト)(WEB)	
展覧会へ行こう(WEB)		大人のカルチャーガイド(WEB)	
ミュージアムカフェ(WEB)		OCNアートジェーン(WEB)	
式代目・青い日記帳(ブログ)		はろどわーど(ブログ)	
ばる新宿(WEB)		G-Call(WEB)	

(6) 池大雅展 (平成22年9月14日～10月24日)

読売新聞	8月21日	朝日新聞	8月30日
毎日新聞	9月1日	日経新聞	9月3日
國華	1380号	芸術新潮	12月号
美術の窓	10月号	展覧会ガイド	9月号

(7) 大沢昌助と父三之助展 (平成22年10月31日～12月23日)

BS朝日 番組(5分)	11月8日～21日	4回放送	
日経新聞	11月6日	毎日新聞	11月24日、12月2日
読売新聞	11月9日、30日	東京新聞	11月25日、12月9日
長野日報	11月19日	信濃毎日新聞	11月25日
新美術新聞	12月1日号	美術の窓	12月号
光が丘NOW	11-12月号	ギャラリー	12月号
草月 冬号		芝浦工業大学発行 BULLETIN	12月号
東洋大学ホームページ(WEB)			

(8) 小野具定と小野成視展 (平成22年10月31日～12月23日)

読売新聞	11月26日
------	--------

(9) 宮芳平展 (平成23年1月4日～2月15日)

東京新聞	12月23日	産経新聞	1月18日
日経新聞	1月6日、2月3日	美術の窓	2月号
光が丘NOW	1-2月号	ぱど(石神井・練馬西)	12月24日
ギャラリー	1月号、2月号	かつせ	1月号、2月号
池袋15'	1月号	ReENTA taste(リエンタテイスト)(WEB)	
カロンズネット(WEB)		Art inn(WEB)	

(10) グランヴィル展 (平成 23 年 2 月 23 日～4 月 10 日)

NHK『日曜美術館 アートシーン』	3 月 6 日		
ニッポン放送 高嶋ひでたけのあさラジ		3 月 11 日	
TOKYO FM 『Blue Ocean』		3 月 21 日(中止)	
読売新聞	2 月 15 日、25 日、3 月 24 日		
毎日新聞	3 月 3 日	日経新聞	2 月 19 日、3 月 3 日
朝日新聞	2 月 17 日、3 月 2 日	サンケイエクスプレス	3 月 1 日
THE DAILY YOMIURI	3 月 4 日	東京新聞	2 月 17 日、3 月 12 日
佐賀新聞	3 月 9 日	信濃毎日	2 月 17 日
新美術新聞	2 月 21 日、3 月 11 日	都政新報	3 月 11 日
芸術新潮	3 月号	美術の窓	2 月号、3 月号
展覧会ガイド	3 月号	クロワッサン	3 月 10 日号
ギャラリー	2 月号	月刊美術	3 月号
キュリオマガジン	3 月号	婦人画報	3 月号
ミセス	4 月号	イラストレーション	3 月号
アートコレクター	2 月号、5 月号	東京人	3 月号
MOE	4 月号	悠+(ぶらす)	2 月号
日本ジャーナリスト会議 広告支部ニュース	4 月号	定年時代	2 月下旬号
かっせ	2 月号、3 月号、4 月号	光が丘 NOW	3-4 月号
よみうりサンタマリア	2 月号	ホットペッパー池袋版	
読売ファミリーサークルニュース	2 月号	ぱど	
カロズネット(WEB)		展覧会へ行こう(WEB)	
式代目・青い日記帳(WEB)		はろるどわーど(WEB)	
ミュゼ・ド・フランス(WEB)		旅 WEB	
ART ACCESSE(WEB)		Francfranc STYLE WEB MAGAZINE	
Fuji-TV ART NET		HMV ONLINE	
Art-inn(WEB)		ぶらり美術館(WEB)	
インターネットミュージアム		ホルベイン アーティストナビ(WEB)	
ぱる新宿(WEB)		G-Call(WEB)	

3. 展覧会放送・掲載回数

	22 年度	21 年度	20 年度
テレビ・ラジオ	1 1	9	8
新聞	6 2	4 4	4 5
美術誌	2 8	1 5	3 6
地域情報誌・その他の雑誌	4 4	3 3	4 5
WEB	3 1	2 7	2 9
計	1 7 6	1 2 8	1 6 3

平成22年度 教育普及事業実績

館内事業

I) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

① 関連ワークショップ・講座

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
PLATFORM展 関連ワークショップ	5月22日(土) 11:00～16:00	河野 徳子 (コミュニケーションアー ティスト)	作品をイメージした音を作り出すワークショップ。	小学生	500	20	7	6
中村宏展 関連ワークショップ	7月30日(金) 11:00～16:00	真子 みほ (当館学芸員)	展示作品のコピーと白画用紙を交互に繋げ、画用紙部分に両脇の作品を繋ぐ絵を描き一枚の長い「連続絵画」に仕立てた	小学1～3年生	100	20	16	13
中村宏展関連 ワークショップ	8月8日(日) 10:30～12:30	真子 みほ (当館学芸員)		小学4年生以上	100	20	5	4
グランヴィール展 関連講座	3月5日(土) 10:30～17:00	間宮 有里恵 (版画家)	エッチング講座1日目	中学生以上	2,000	15	35	14
	3月6日(日) 10:30～17:00		エッチング講座2日目	中学生以上				
グランヴィール展 関連ワークショップ	3月26日(土) 14:00～15:30	FOLK DESIGN LABORATOR Y	グラフィックデザイナーの美術館での仕事について話す	中学生以上	無料	20	中止	
					計5回 参加者延37名			

② ギャラリートーク

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
N+N展	4月11日(土) 14:00～	出品作家 他	出品作家によるギャラリートーク	—	無料	—	—	80
PLATFORM展	5月1日(土) 14:00～	寺田 真由美 (作家)	出品作家によるギャラリートーク	—	展覧会 観覧料	—	—	52
毛利武彦展	6月19日(土) 14:00～	内田 あぐり (武蔵野美術大 学教授) + 野地 耕一郎 (当館学芸員)	出品作家縁の方と担当学芸員によるギャラリートーク	—	展覧会 観覧料	—	—	80
	7月17日(土) 14:00～	山本 直彰 (日本画家) + 野地 耕一郎 (当館学芸員)		—	展覧会 観覧料	—	—	78
中村宏展	7月25日(日) 15:00～	中村宏(作家) + 野地 耕一郎 (当館学芸員)	展覧会出品作家と担当学芸員によるギャラリートーク	—	展覧会 観覧料	—	—	78
	8月22日(日) 15:00～			—	展覧会 観覧料	—	—	52
	9月5日(日) 15:00～			—	展覧会 観覧料	—	—	83
稲垣兄弟展	9月25日(土) 15:00～	野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラリートーク	—	展覧会 観覧料	—	—	50
	10月2日(土) 15:00～	諸山 正則 (東京国立近代 美術館工芸課主 任研究官)	展示室内にて「稲垣稔次郎の型絵染」について解説いただいた	—	展覧会 観覧料	—	—	45
	10月9日(土) 14:00～15:00	野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラリートーク	—	展覧会 観覧料	—	—	26

大沢展関連	ギャラリートーク	11月6日(土) 14:00～15:00	上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラリー トーク	—	観覧料	—	—	20
	スペシャルトーク	11月14日(土) 14:00～15:30	大沢 泰夫 (大沢三之助 孫)	出品作家の孫によるギャラリー トーク	—	観覧料	—	—	70
	ギャラリートーク	11月20日(土) 14:00～15:00	上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラリー トーク	—	観覧料	—	—	15
		11月27日(土) 14:00～15:00		担当学芸員によるギャラリー トーク	—	観覧料	—	—	10
		12月4日(土) 14:00～15:00		担当学芸員によるギャラリー トーク	—	観覧料	—	—	13
12月18日(土) 14:00～15:00	担当学芸員によるギャラリー トーク	—	観覧料	—	—	15			
小野具定・茂視展	ゲスト・トーク	11月21日(日) 14:00～	小野茂視 (写真家)	出品作家と担当学芸員による ギャラリートーク	—	観覧料	—	—	13
		12月19日(日) 14:00～	野地 耕一郎 (当館学芸員)	出品作家と担当学芸員による ギャラリートーク	—	観覧料	—	—	14
宮芳平展	ギャラリートーク	1月22日(土) 15:00～16:00	野地 耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員によるギャラリー トーク	—	無料	—	—	30
		2月12日(土) 15:00～16:00		担当学芸員によるギャラリー トーク(手話通訳付)	—	無料	—	—	35
						計20回 参加者延859名			

③ 講演会、シンポジウム等

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
N+N展 関連シンポジウム	4月3日(土) 14:00～	高橋幸次 (日芸美術学科 教授) 他	N+N展出品作家による シンポジウム(於視聴覚室)	—	無料	—	—	55	
PLATFORM展 関連対談	4月24日(土) 14:00～	寺田 真由美 (作家) 飯沢 耕太郎 (評論家)	出品作家と写真評論家との対 談(於会議室)	中学生 以上	観覧料	25	19	19	
PLATFORM展 関連レクチャー	5月8日(土) 14:00～15:30	杉田 敦 (美術評論家)	社会とアートについてのレク チャー(於会議室)	中学生 以上	観覧料	25	20	17	
大沢展関連 紙映画上映会	12月11日(土) 14:00～15:30	大沢 匠 (大沢三之助 孫)	大沢家で楽しまれた手作り紙 映画を上映した(於視聴覚室)	—	無料	—	—	53	
グランヴィール展	3月20日(日) 14:00～15:30	高階秀爾 (大原美術館館 長)	19世紀フランスの諷刺画や挿 絵などの版画世界について	中学生 以上	観覧料	50	153	中止	
グランヴィール展	4月10日(日) 14:00～15:30	鹿島茂 (明治大学教授)	グランヴィール及びコレクション 蒐集に対する情熱について (於視聴覚室)	中学生 以上	観覧料	50	226	60	
						計5回 参加者延204名			

④ コンサート

事業名	日程	出演	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
PLATFORM展	5月15日(土) 14:00～15:00	tico moon (吉野友加+影 山敏彦)	展覧会に合わせたアイリッ シュハーブとギターによる ライブ。	—	観覧料	—	—	45	
池大雅展	10月16日(土) 16:00～17:00	澤井俊佑	クラシック音楽を中心としたピ アノ演奏。	—	観覧料	—	—	70	
グランヴィール展	2月27日(日) 14:00～15:00	徳澤青弦 &林正樹	チェロとピアノによる演奏	—	観覧料	—	—	150	
						計3回 鑑賞者延265名			

⑤ 鑑賞プログラム

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
PLATFORM展	トコトコ美術館 vol.5「まど」	5月29日(土) 15:00～16:00	展示作品の鑑賞と読み聞かせ、厚紙で窓を作った。	3歳～小学1年+保護者	無料	5組	3組7名	3組6名
中村宏展	拡大美術館【A】 vol.6「マシン」	7月31日(土) 13:30～14:30	展示作品の中から好きな「マシン」を見つけ、作品の様子を言葉に変換し楽しんだ	小学2～6年生	無料	5	5	5
	トコトコ美術館【A】 vol.6「マシン」	7月31日(土) 15:00～16:00	展示作品の鑑賞と読み聞かせ、段ボールでマシンを作った	3歳～小学1年+保護者	無料	5組	10組22名	5組12名
	拡大美術館【B】 vol.6「マシン」	8月7日(土) 13:30～14:30	展示作品の中から好きな「マシン」を見つけ、作品の様子を言葉に変換し楽しんだ	3歳～小学1年+保護者	無料	5	3	1
	トコトコ美術館【A】 vol.6「マシン」	8月7日(土) 15:00～16:00	展示作品の鑑賞と読み聞かせ、段ボールでマシンを作った	3歳～小学1年+保護者	無料	5組	10組22名	5組11名
					計5回	参加者延35名		

II) 美術講座 (美術に関する知識を学ぶ)

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
おでかけ“写真”美術館	10月17日(日) 10:30～17:00	東京都写真美術館学芸員+ 真子 みほ(当館学芸員)	写真美術館に出かけ、練馬との比較を通して美術館について学んだ。写真美術館ではおどろき盤の制作体験も行った	小学4～6年生	保険50円+ 交通費	10	3	3
はじめての日本画	「パネル貼りから絵具作り・模写・彩色まで」(2日間)	11月13日(土) 10:30～17:00	日本画初心者向けの実技講座1日目。	中学生以上	3,000	15	34	16
		11月14日(日) 10:30～17:00						
はじめての日本美術史A	「日本美術の始まり(明治)」	11月28日(日) 14:00～15:30	北澤 憲昭 (女子美術大学教授)	明治時代の「美術」という言葉とその制度についてご講義いただいた(於視聴覚室)	無料	50	37	30
はじめての日本美術史B	「美術への反動(大正・昭和)」	12月5日(日) 14:00～15:30	足立 元 (日本学術振興会特別研究員)	大正時代の社会における、美術を手段とした反権力運動についてご講義いただいた(於視聴覚室)	無料	50	41	32
油絵実技	「写真をモチーフに描くリアルな静物」(2日間)	1月22日(土) 10:30～17:00	薄久保 香 (作家)	油彩初心者のための実技講座1日目。	3,000	15	43	15
		1月23日(日) 10:30～17:00						
					計7回	参加者延96名		

III) 美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
四季のみじたく⑤	夏のみじたく 「BBQ YO ペットボトルホルダーをつくろう」	7月4日(土) 10:30～16:00	石澤 彰一 (押忍!手芸部部长)	靴下を使ってペットボトルホルダーを作った	小学4年生以上	1,000	20	20
Whispers of Earth ～小さきものの大きなメッセージ～ 「気分は探検昆虫学者」※	8月16日(水) 10:30～16:00	西田 賢司 (昆虫学者)	美術館周辺の自然の中で生きる昆虫や植物の姿を写真に捉えた。	小学生	無料	30	60	30
「歌って楽しく体も元気！」	8月28日(土) 10:30～12:30	かのんぷ♪ (アコースティックユニット)	発声ワークショップの後、皆で歌を歌う。後半30分はかのんぷ♪のミニライブを行い、参加者も歌唱に加わった	5歳以上	無料	20	18	16
	8月28日(土) 14:00～16:00			5歳以上	無料	20	22	11
四季のみじたく⑥	秋のみじたく 「フェルトと革でルームシューズ」	10月9日(土) 10:30～16:00	UZURA (手作り靴屋)	厚手のフェルトでルームシューズを作った	小学4年生以上	2,000	20	41
四季のみじたく⑦	冬のみじたく 「初めての棒編みぼかばか指なし手袋」	11月23日(火祝) 10:30～17:00	三國万里子 (ニット)	棒針で初心者でもできる指なし手袋を編んだ	小学4年生以上	無料	15	101
四季のみじたく⑧	春のみじたく 「古着でつくる2月26日のブローチ」	2月26日(土) 13:30～17:00	伊藤さち (作家)	グループごとに持参した古着を切ったり交換したりして交流しそれぞれブローチを作った	小学4年生以上	200	20	28
					計7回	延130名		

※ワンダーアートプロダクションとの共同開催

館内事業計52回 参加者延1626名

学校関連事業

I) **スクールプログラム** 4月にパンフレットを作成し各学校に配布。申し込みの際は用紙に記入し送付していただいた。

① **団体鑑賞** A=簡単な展示概要と作品解説のみ、B=先生が美術館にて授業を行った

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
Aコース	12月16日(木) 10:00～11:00	—	都立大泉特別支援学校高等部	4名	3名
	3月2日(水) 10:50～11:20	—	学校法人山崎学園富士見中学高等学校 中学2年桜組	46名	1名
	3月2日(水) 13:25～13:55	—	学校法人山崎学園富士見中学高等学校 中学2年梅組	46名	1名
	3月2日(水) 14:25～14:55	—	学校法人山崎学園富士見中学高等学校 中学2年菊組	46名	1名
	3月3日(木) 11:50～12:20	—	学校法人山崎学園富士見中学高等学校 中学2年松組	46名	1名
	3月3日(木) 13:25～13:55	—	学校法人山崎学園富士見中学高等学校 中学2年竹組	46名	1名
	3月4日(金) 11:50～12:20	—	学校法人山崎学園富士見中学高等学校 中学2年桃組	46名	1名
	Bコース		—		—
				計7回	延280名

② **施設見学** 各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介した

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
施設見学	5月25日(火) 13:30～14:30	—	日大芸術学部博物館実習履修生	延63名	1名
	5月28日(金) 13:30～14:30	—	日大芸術学部博物館実習履修生		1名
	6月9日(木) 11:20～12:00	—	練馬区立中村西小学校・2年生	13名	1名
	11月25日(金) 10:00～11:00	—	練馬区立大泉北小学校・3年生	114名	5名
				計4回	延198名

③ **職場体験** 受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝えた

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
職場体験	6月29日(火) ～30日(水) 9:30～15:00	6月18日(金) 14:15～	練馬区立石神井東中学校・2年生	3	見 回 り 各 校 1 名
	7月7日(水) ～8日(木) 9:30～15:00	6月29日(火) 15:30～	練馬区立石神井中学校・2年生	2	
	8月27日(金) ～28日(土) 9:30～15:00	7月13日(土) 12:40～	東京学芸大学附属高校大泉校舎・2年生	1	
	9月2日(木) ～3日(金) 9:30～15:00	7月8日(火) 16:45～	練馬区立上石神井中学校・2年生	3	
	9月16日(木) ～17日(金) 9:30～15:00	9月10日(金) 14:50～	練馬区立貫井中学校・2年生	2	
	1月20日(木) 9:30～15:00	1月18日(火) 16:00～	練馬区立中村中学校・1年生	3	
	2月3日(木) ～4日(金) 9:30～15:00	1月25日(火) 16:45～	練馬区立開進第二中学校・1年生	3	
	2月4日(金) 9:30～15:00	1月21日(金) 15:00～	練馬区立大泉学園中学校・1年生	3	
	2月15日(火) ～16日(水) 9:30～15:00	なし	小金井市立緑中学校・1年生	3	
				計9回	延23名

スクールプログラム計20回 参加児童・生徒・学生 延501名

II) ティーチャーズディ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設けた。各日ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とした。

展覧会名	日程	参加人数
PLATFORM展	4月27日(火) 15:30～16:30	15
中村宏展	7月25日(火) 15:30～16:30	22
稲垣兄弟展	9月25日(水) 15:30～16:30	7
大沢展/小野展	11月16日(火) 15:30～16:30	9
グランヴィル展	3月1日(火) 15:30～16:30	17
		計5回 延70名

III) スクールミュージアム

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行った。

※これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成したもの。

本年度の貸し出し なし

IV) その他

◆学外活動受け入れ 都立大泉桜高校美術部部員 延12名(引率延6名)

日時	参加プログラム名	活動内容	人数	引率
7月30日(金)	11:00～17:00 中村宏連続絵画A 拡大!美術館・トコトコ美術館 拡大!美術館・トコトコ美術館 中村宏連続絵画B	1時間のレクチャー+ プログラムの準備・片付け、写真撮影、制作補助等	4名	2名
7月31日(土)			2名	1名
8月7日(土)			2名	1名
8月8日(日)			4名	2名

◆初任者研修受け入れ 1名

- ・ 8月8日(日) 10:00～17:00 東京都立桜高等学校教諭 安田直人 教諭
ワークショップ「中村宏連続絵画B」開催時

研修内容：初任者研修課題別研修「ボランティア活動への参加」としてイベントの手伝い等を行った

◆建築士試験のための施設見学受け入れ 91名

- ・ 8月14,21,28日、9月4,18,25日、10月2日(全て土曜日)
一級建築士試験受験者

※平成22年度一級建築士試験の課題が美術館であった。施設見学の要望が多かったため毎週土曜日に事前予約制で施設見学を行った。

その他事業参加者 延180名

22年度教育普及事業全参加者 計2,316名
21年度教育普及事業全参加者 計2,345名

平成22年度 博物館実習受入実績

実習実施期間 平成22年9月2日(木)～9月12日(日)＜9日間＞

1 学習院大学	文学部 哲学科	1 名
2 多摩美術大学	美術学部 情報デザイン学科	1 名
3 武蔵大学	人文学部 日本・東アジア比較文化学科	1 名
4 大東文化大学	経済学部 社会経済学科	1 名
5 武蔵野美術大学	造形学部 デザイン情報学科	1 名
6 跡見学園女子大学	文学部 人文学科	1 名
7 昭和女子大学	人間文化学部 歴史文化学科	1 名
8 立教大学大学院	文学研究科 フランス文学専攻	1 名
9 共立女子大学	文芸学部 文芸学科	1 名
10 日本大学	芸術学部 美術学科	1 名
11 明治学院大学	文学部 芸術学科	1 名
12 清泉女子大学	文学部 文化史学科	1 名

合計 12 名
(21年度 8 名)

平成22年度 美術館サポーター(ボランティア)活動実績

「美術館サポーター」は、平成17年8月からスタートしたボランティア活動(1年更新)で、美術館事業の一部(チラシ発送作業・新聞資料作成・イベントの手伝い等)を担ってもらうボランティア活動である。

平成22年7月に第5期が終了し、8月から第6期が始動した。第5期から継続登録した46人のサポーターに加え、新規で32人が加わり計78人が活動している。

サポーター活動の実績

平成23年3月31日現在

展覧会等	活動内容	活動日数	延べ人数
N+N 展	イベント補助	1日	2名
PLATFORM2010展	イベント補助	3日	6名
毛利武彦展 第56回練馬区美術家協会展	チラシ等発送準備	1日	5名
タブロオ・マシン(図画機械) —中村宏の絵画と模型	チラシ等発送準備	1日	5名
稲垣仲静・稔次郎兄弟展	チラシ等発送準備	2日	8名
池大雅の山水画展	イベント補助	1日	4名
開館25周年記念 芸術家の家 大沢昌助と父三之助展	チラシ等発送準備	1日	5名
	イベント補助	1日	15名
鹿島茂コレクション1 グランヴィル —19世紀フランス幻想版画展	チラシ等発送準備	2日	8名
	イベント補助	1日	6名
第42回練馬区民美術展	受付・会場監視 ・展示補助	6日	49名
PLATFORM2011展	チラシ等発送準備	1日	5名
教育普及事業	引率	1日	2名
	団体鑑賞記録写真撮影・対応	2日	2名
	美術講座受付	2日	4名
創作室 貸出備品の絵具落とし		2日	6名
サポーター向「お知らせ」・「階」発送作業		4日	11名
練馬区ゆかりの作家調べ		12日	94名
サポーター通信「階(きざはし)」編集		6日	35名
新聞資料切り抜き整理		51日	389名
サントリー美術館見学		1日	30名
館長を囲む会		4日	99名

美術作品の収蔵状況

(平成23年3月31日現在)

年度	日本画		洋画		版画		工芸		書		彫刻・立体		その他		計		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	購入	寄贈	
59	6		9	1			1	2							16	3	19
60	1	1	5	1		1				1					6	4	10
61		7	14	221	14	28								317	28	573	601
62	3	1	32	16	9	1							1	1	45	19	64
63	2	1	15	1	12										29	2	31
1	2		5	48											7	48	55
2	4	1	19	29	4	1									27	31	58
3	2	1	14	13											16	14	30
4	2	1	12	10	18	9									32	20	52
5	2		1	2											3	2	5
6	1	1	15	7		1				1					17	9	26
7	2	4	4	3		1					1				6	9	15
8	1	2	2	9	5	1									8	12	20
9			12	2	1	46									13	48	61
10	3	4	12	21											15	25	40
11		4	12	5		134									12	143	155
12		8		11											0	19	19
13				13											0	13	13
14		29		13											0	42	42
15		1	6	8	12	77									18	86	104
16		65		6											0	71	71
17		6		20											0	26	26
18		30		121		97								8	0	256	256
19		17		40				5				7		7	0	76	76
20		8		31		21									0	60	60
21		8		44		98						13			0	163	163
22		11		168		9								3		191	191
合計	31	211	189	864	75	525	1	7	0	1	1	21	1	336	298	1965	2263

平成23年3月31日現在
寄託作品 551件

<平成22年度美術作品取得状況>

■(1)購入

なし

■(2)寄贈

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
1	日本画	朝倉 撰	群像	1950	紙本着色	144.5×193.3
2	版画	大沢昌助	海景	1994	シルクスクリーン・紙	16.5×24.8
3	版画	大沢昌助	いつか来た道	1995	シルクスクリーン・紙	16.5×24.8
4	版画	大沢昌助	そして 笑う	1995	自刻木版・和紙	20.0×30.0
5	版画	大沢昌助	一遍上人	1997	エッチング・紙	32.0×24.0
6	版画	大沢昌助	ひかり	1997	エッチング・紙	32.0×24.0
7	版画	大沢昌助	徘徊	1993	シルクスクリーン・紙	42.0×56.0
8	版画	大沢昌助	つどい	1994	エッチング・紙	23.5×32.5
9	版画	大沢昌助	アルカディア	1993	エッチング・紙	24.0×32.0
10	洋画	鐙木昌弥	路上-1	1966	油彩・画布	116.7×90.9
11	洋画	鐙木昌弥	横たわる人	1969	ケント紙、鉛筆	39.3×54.5
12	洋画	鐙木昌弥	地に伏して	1969	ケント紙、鉛筆	27.2×39.3
13	洋画	鐙木昌弥	顔	1969	紙、鉛筆、ガッシュ	27.2×39.3
14	洋画	鐙木昌弥	種族の目	1969	ケント紙、鉛筆	27.2×39.3
15	洋画	鐙木昌弥	石神井地区の転向・名付けの闇	1969	油彩・画布	65.2×50.0
16	洋画	鐙木昌弥	石神井地区の転向・賈狼煙	1969	油彩・画布	50.0×65.2
17	洋画	鐙木昌弥	石神井地区の転向・マル秘伝奇	1969	油彩・画布	50.0×65.2
18	洋画	鐙木昌弥	水千里(宴の心)	1969	油彩・画布	90.9×116.7
19	洋画	鐙木昌弥	日々	1970	油彩・画布	90.9×116.7
20	洋画	鐙木昌弥	木馬の日	1970	紙、鉛筆、ガッシュ	26.3×36.0
21	洋画	鐙木昌弥	貌A	1971	ケント紙、鉛筆	39.3×27.2
22	洋画	鐙木昌弥	水の下	1971	ケント紙、鉛筆	39.3×27.2
23	洋画	鐙木昌弥	2つの渦	1972	ケント紙、鉛筆	54.5×39.3
24	洋画	鐙木昌弥	使者	1972	ケント紙、鉛筆	54.5×39.3
25	洋画	鐙木昌弥	周期	1972	ケント紙、鉛筆	39.3×27.2
26	洋画	鐙木昌弥	頭部	1972	ケント紙、鉛筆	39.3×27.2
27	洋画	鐙木昌弥	西の椅子	1972	ケント紙、鉛筆	27.2×39.3
28	洋画	鐙木昌弥	貌	1973	ケント紙、鉛筆	55.0×39.8
29	洋画	鐙木昌弥	草木女 そうもくじょ	1973	ケント紙、鉛筆	54.5×39.3
30	洋画	鐙木昌弥	遠い水音	1973	ケント紙、鉛筆、色鉛筆	55.0×39.3
31	洋画	鐙木昌弥	露地	1973	紙、鉛筆、ガッシュ	27.1×19.6
32	洋画	鐙木昌弥	丘の年代記	1973	紙、鉛筆、ガッシュ	26.7×20.3
33	洋画	鐙木昌弥	水成岩	1973	油彩・画布	116.7×90.9
34	洋画	鐙木昌弥	馬に乗って	1974	紙、鉛筆、ガッシュ	54.8×78.8
35	洋画	鐙木昌弥	花嫁姿	1974	紙、鉛筆、ガッシュ	79.0×54.8
36	洋画	鐙木昌弥	巢の語らい	1975	紙、鉛筆、ガッシュ、コンテ	56.1×92.0
37	洋画	鐙木昌弥	妖しい顔	1976	ケント紙、コンテ	36.6×25.7
38	洋画	鐙木昌弥	人を迎える草	1976	ケント紙、コンテ	36.6×25.7
39	洋画	鐙木昌弥	牧神風(ed.4/30)	1977	木版、和紙	36.1×5.3
40	洋画	鐙木昌弥	バロック真珠(ed.48/50)	1977	木版、紙	28.0×19.8
41	洋画	鐙木昌弥	ここを離れて	1978	紙、ガッシュ、コンテ、色鉛筆	53.6×38.5
42	洋画	鐙木昌弥	茎の約束	1979	油彩・画布	65.2×100.0
43	洋画	鐙木昌弥	草の領域	1979	油彩・画布	65.2×100.0
44	洋画	鐙木昌弥	狂えるM	1980	紙、ガッシュ	38.4×3.7
45	洋画	鐙木昌弥	点描・人物	1981	油彩・画布	90.9×116.7
46	洋画	鐙木昌弥	A室のささやきと声	1982	紙、鉛筆	14.5×24.4(窓寸)
47	洋画	鐙木昌弥	蝸牛紋	1983	紙、鉛筆、パステル	26.5×23.0
48	洋画	鐙木昌弥	妬ましき羽化	1983	ボード、鉛筆、パステル	59.2×42.1
49	洋画	鐙木昌弥	行進の終り	1983	紙、鉛筆、パステル	72.7×54.5
50	洋画	鐙木昌弥	くりかえし 再び	1984	キャンバス、ガッシュ、木炭、 チョーク	89.4×145.5
51	洋画	鐙木昌弥	魔法の国へようこそ・・・	1985	ベニヤ、アルミ、油彩、釘	18.0×14.0
52	洋画	鐙木昌弥	消された日-Y	1985	ボード、鉛筆、パステル	51.5×36.5
53	洋画	鐙木昌弥	我慢する子(男の子)	1985	油彩・画布	41.0×32.0
54	洋画	鐙木昌弥	頭の景色	1985	紙、ガッシュ、水彩	25.0×18.7
55	洋画	鐙木昌弥	体(body)	1986	ボード、鉛筆	18.8×32.3
56	洋画	鐙木昌弥	庭の住人	1986	油彩・画布	91.0×117.0
57	洋画	鐙木昌弥	野菜図	1986	油彩・画布	38.0×45.5

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
58	洋画	鐙木昌弥	後ろ向きと背中の間-1	1987	和紙、鉛筆、フロッタージュ 軸装	150.0×100.0
59	洋画	鐙木昌弥	後ろ向きと背中の間-8	1987	和紙、鉛筆、フロッタージュ 軸装	100.0×70.0
60	洋画	鐙木昌弥	後ろ向きと背中の間-9(トルソー-1)	1987	和紙、鉛筆 軸装	100.0×70.0
61	洋画	鐙木昌弥	後ろ向きと背中の間-10(トルソー-2)	1987	和紙、鉛筆 軸装	100.0×70.0
62	洋画	鐙木昌弥	彼女は増殖する点である	1987	洋紙、ガッシュ、インク、金	32.6×25.5
63	洋画	鐙木昌弥	黒い背中	1988	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	67.0×50.0
64	洋画	鐙木昌弥	ゆるやかな背中	1988	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	67.0×50.0
65	洋画	鐙木昌弥	横むきの顔	1988	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	54.0×33.0
66	洋画	鐙木昌弥	背に触れて	1988	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	67.0×50.0
67	洋画	鐙木昌弥	遠い背中	1988	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	67.0×50.0
68	洋画	鐙木昌弥	うなじ	1988	和紙、ガッシュ	50.0×67.5
69	洋画	鐙木昌弥	背中での記憶	1988	和紙、ガッシュ	50.0×67.5
70	洋画	鐙木昌弥	哀しい時間	1988	和紙、アクリル、ガッシュ	50.0×34.0
71	洋画	鐙木昌弥	振り向いた記憶	1988	和紙、アクリル、ガッシュ	50.0×34.0
72	洋画	鐙木昌弥	陰の宇宙にて	1989	和紙、ガッシュ	68.0×50.0
73	洋画	鐙木昌弥	官賤	1989	和紙、ガッシュ	68.0×50.0
74	洋画	鐙木昌弥	官面	1989	和紙、ガッシュ	68.0×50.0
75	洋画	鐙木昌弥	官貌	1989	和紙、ガッシュ	68.0×50.0
76	洋画	鐙木昌弥	座像-02	1990	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	50.5×71.5
77	洋画	鐙木昌弥	微かなもののそばで	1990	和紙、アクリル、ガッシュ 軸装	71.5×86.0
78	洋画	鐙木昌弥	虫めずるひと	1991	和紙、アクリル、ガッシュ 軸装	70.4×49.7
79	洋画	鐙木昌弥	白い服のまま	1991	和紙、鉛筆、ガッシュ	40.5×29.3
80	洋画	鐙木昌弥	20代	1991	紙、鉛筆、ガッシュ	25.4×16.8
81	洋画	鐙木昌弥	白い入浴	1992	和紙、アクリル、ガッシュ	42.0×58.0
82	洋画	鐙木昌弥	トマトの国の未亡人	1992	パネル、和紙、アクリル、ガッシュ	83.8×59.3
83	洋画	鐙木昌弥	森へまいりましょう	1992	和紙、アクリル、ガッシュ	48.5×67.2
84	洋画	鐙木昌弥	青いアンセリウムシリーズ「黒いすみか」	1992	和紙、アクリル、ガッシュ	69.3×50.4
85	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・1	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
86	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・2	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
87	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・3	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
88	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・4	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
89	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・5	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
90	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・6	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
91	洋画	鐙木昌弥	たぶん、らかんは未遂・・・7	1993	和紙、ガッシュ	84.1×59.4
92	洋画	鐙木昌弥	9-D-31	1993	紙、鉛筆、ガッシュ	23.5×32.8
93	洋画	鐙木昌弥	二人のノクターン	1994	和紙、ガッシュ	100.0×70.0
94	洋画	鐙木昌弥	翼をもつ青いもの	1994	和紙、アクリル、ガッシュ	50.2×35.0
95	洋画	鐙木昌弥	花の時間	1994	和紙、ガッシュ	50.0×30.8
96	洋画	鐙木昌弥	9-D-40	1994	紙、鉛筆、金泥	18.5×26.0
97	洋画	鐙木昌弥	9-D-46	1994	紙、鉛筆、ガッシュ	26.0×18.6
98	洋画	鐙木昌弥	あるいは被告-1	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	69.7×49.9
99	洋画	鐙木昌弥	あるいは被告-2	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	69.7×49.8
100	洋画	鐙木昌弥	あるいは被告-3	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	69.4×49.8
101	洋画	鐙木昌弥	あるいは被告-4	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	69.5×49.8
102	洋画	鐙木昌弥	あるいは被告-5	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	69.5×49.8
103	洋画	鐙木昌弥	あるいは被告-終章	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	69.7×49.8
104	洋画	鐙木昌弥	美しい首	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	70.6×50.0
105	洋画	鐙木昌弥	声のする首	1995	和紙、アクリル、ガッシュ	70.6×49.6
106	洋画	鐙木昌弥	しずくの辺り	1996	和紙、アクリル、ガッシュ、木炭	71.5×49.2
107	洋画	鐙木昌弥	絹色の時間	1996	和紙、アクリル、ガッシュ、木炭	71.2×50.2
108	洋画	鐙木昌弥	きのうの終わり	1996	和紙、アクリル、ガッシュ	50.0×35.6
109	洋画	鐙木昌弥	白い帽の回想	1997	和紙、アクリル、ガッシュ	50.0×35.6
110	洋画	鐙木昌弥	誘惑のまぼろし	1998	和紙、アクリル、ガッシュ	49.2×33.3
111	洋画	鐙木昌弥	三角錐の陰	1998	和紙、アクリル、ガッシュ	19.1×28.5
112	洋画	鐙木昌弥	二つのざくろ	1998	和紙、アクリル、ガッシュ	19.4×27.2
113	洋画	鐙木昌弥	乳房の夢	1998	和紙、アクリル、ガッシュ	49.0×28.5
114	洋画	鐙木昌弥	赤い畑	1999	和紙、アクリル、ガッシュ	19.0×36.4
115	洋画	鐙木昌弥	老作家	2000	ガッシュ	51.0×72.0
116	洋画	鐙木昌弥	飛ぶ修羅	2000	和紙、アクリル、ガッシュ	49.3×70.5
117	洋画	鐙木昌弥	羽化の人	2000	和紙、アクリル、ガッシュ	49.6×70.4
118	洋画	鐙木昌弥	閉塞する羽根	2000	和紙、アクリル、ガッシュ	49.6×70.4
119	洋画	鐙木昌弥	素描作品no.2?	2001	紙、鉛筆、色鉛筆	27.2×35.5

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
120	洋画	鐙木昌弥	素描作品no.3	2001	紙、鉛筆、色鉛筆	27.2×35.5
121	洋画	鐙木昌弥	素描作品no.4	2001	紙、鉛筆、色鉛筆	27.2×35.5
122	洋画	鐙木昌弥	Sのプラットホーム・2	2001	和紙、アクリル	73.0×103.5
123	洋画	鐙木昌弥	ラッシュに・2	2001	和紙、アクリル	73.0×103.5
124	洋画	鐙木昌弥	車庫の隣の住人	2004	ボード、ガッシュ、コンテ	45.4×37.8
125	洋画	鐙木昌弥	午後のM	2004	パネル、和紙、アクリル、ガッシュ	84.0×59.5
126	洋画	鐙木昌弥	ちいさな壁	2004	パネル、和紙、アクリル、ガッシュ	84.0×59.5
127	洋画	鐙木昌弥	午後4時に	2004	パネル、和紙、アクリル、ガッシュ	51.5×36.3
128	洋画	鐙木昌弥	コリアンの	2004	和紙、アクリル、ガッシュ、チョーク	50.5×37.3
129	洋画	鐙木昌弥	薄明と声と	2004	和紙、アクリル、ガッシュ	50.3×37.0
130	洋画	鐙木昌弥	倉庫10時のひと	2004	ボード、ガッシュ、コンテ	41.7×32.0
131	洋画	鐙木昌弥	鳥のバランス	2004	ボード、ガッシュ	34.1×25.9
132	洋画	鐙木昌弥	頭を飾る時	2005	ボード、ガッシュ	41.6×31.8
133	洋画	鐙木昌弥	バードウォッチングをした日	2005	ボード、ガッシュ、色鉛筆	36.4×25.6
134	洋画	鐙木昌弥	あるバランス	2005	ボード、ガッシュ	41.0×31.7
135	洋画	鐙木昌弥	黄色の羽根	2005	パネル、和紙、ガッシュ	51.4×36.3
136	洋画	鐙木昌弥	水鳥の訪問	2005	パネル、和紙、ガッシュ	41.1×31.8
137	洋画	鐙木昌弥	鳥たちの頃	2005	ボード、和紙、ガッシュ	41.1×31.8
138	洋画	鐙木昌弥	水鳥は今	2005	箱のふた、ガッシュ	28.9×27.0
139	洋画	鐙木昌弥	お茶の時間	2005	パネル、和紙、ガッシュ	84.1×59.4
140	洋画	鐙木昌弥	息の言葉	2005	ボード、ガッシュ	53.7×38.7
141	洋画	鐙木昌弥	痛いの、とんでいけ-1	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
142	洋画	鐙木昌弥	痛いの、とんでいけ-2	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
143	洋画	鐙木昌弥	痛いの、とんでいくのよ	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
144	洋画	鐙木昌弥	痛いの、とんでいってよ	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
145	洋画	鐙木昌弥	痛いの、いたいのね	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
146	洋画	鐙木昌弥	ああ、痛いの、とんでいって	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
147	洋画	鐙木昌弥	痛いの、痛いの、痛いの	2005	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	36.2×23.6
148	洋画	鐙木昌弥	わたしの痛いのなんか	2005	和紙、アクリル、ガッシュ	36.0×23.5
149	洋画	鐙木昌弥	あなたの痛み	2005	和紙、鉛筆、アクリル、ガッシュ	36.0×23.5
150	洋画	鐙木昌弥	団欒あるいは母のボーイフレンド・アールグレイ	2005	ケントボード、色鉛筆、木炭、ガッシュ	57.5×36.4
151	洋画	鐙木昌弥	団欒あるいは母のボーイフレンド・姉弟	2005	洋紙、鉛筆、色鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
152	洋画	鐙木昌弥	団欒あるいは母のボーイフレンド・カフェ	2005	ケント紙、色鉛筆、ガッシュ	37.8×27.0
153	洋画	鐙木昌弥	団欒あるいは母のボーイフレンド・アリス亭	2005	ケントボード、色鉛筆、ガッシュ	51.5×36.4
154	洋画	鐙木昌弥	団欒あるいは母のボーイフレンド	2005	和紙、アクリル、ガッシュ	73.0×103.0
155	洋画	鐙木昌弥	絵本あるいは母のボーイフレンド・優しい会話	2005	和紙、木炭、アクリル、ガッシュ	73.0×103.0
156	洋画	鐙木昌弥	団欒あるいは横丁の家族	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	25.0×35.0
157	洋画	鐙木昌弥	ある団欒の予感	2005	洋紙、鉛筆、ガッシュ	35.0×25.0
158	版画	郭徳俊	オバマと郭	2009	シルクスクリーン・紙	51.5×36.8
159	洋画	高木背水	春雨の後		油彩・画布	50.0×60.0
160	写真	寺田真由美	Fruitbowl 040803-1	2004	ゼラチンシルバープリント	43.2×57.2
161	写真	寺田真由美	Two reclining chairs	2006	ゼラチンシルバープリント	25.2×20.0
162	写真	寺田真由美	awning and owaltable	2006	ゼラチンシルバープリント	25.2×20.0
163	洋画	中尾 彰	顔(ロシア人の女)	1931	油彩・画布	53.0×45.7
164	洋画	中尾 彰	顔	1932	油彩・画布	53.0×45.5
165	洋画	中村 宏	ある肖像 I	1956	墨・紙	26.5×20.0
166	洋画	中村 宏	ある肖像 II	1956	墨・紙	24.0×20.0
167	洋画	中村 宏	プロペラA	1973-20	油彩・画布	91.0×72.5
168	洋画	中村 宏	プロペラB	1973-20	油彩・画布	91.0×72.5
169	洋画	中村 宏	波	1974	油彩・画布	45.6×53.3
170	洋画	中村 宏	車窓篇 TYPE 2(コックピット)	1975	油彩・画布	130.0×162.0
171	洋画	中村 宏	車窓篇TYPE 12	1982	油彩・画布	116.0×91.0?
172	洋画	中村 宏	車窓篇TYPE 13(朝・昼・夜)	1983	油彩・画布	各93.0×119.0
173	洋画	中村 宏	早来迎機(4)	1988	アクリル・画布	90.9×116.7
174	洋画	中村 宏	タブロオ機械・XI	1999	アクリル・画布	130.3×162.1
175	洋画	中村 宏	鉄道ダイヤグラムD	1999	アクリル・画布	116.7×240.9
176	洋画	中村 宏	図鑑・2 背後	2006	アクリル・画布	228.0×117.0
177	洋画	中村 宏	タブロオ機械・II-B	1992-200	アクリル・画布(10枚組)	53.0×650.0
178	日本画	毛利武彦	森	1952	紙本着色	89.5×120.5
179	日本画	毛利武彦	風景A	1953	紙本着色	60.0×72.1
180	日本画	毛利武彦	煙突のある風景	1955	紙本着色	194.5×80.0
181	日本画	毛利武彦	サーカス	1960	紙本着色	96.5×130.0

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
182	日本画	毛利武彦	海巖	1962	紙本着色	169.5×173.0
183	日本画	毛利武彦	刈る人	1964	紙本着色	21.2×147.1
184	日本画	毛利武彦	海と馬	1965	紙本着色	227.3×181.2
185	日本画	毛利武彦	広場の鳩	1977	紙本着色	204.5×181.7
186	日本画	毛利武彦	雪ふりやむ	1979	紙本着色	90.8×116.6
187	日本画	毛利武彦	犀の風景	1986	紙本着色	116.0×91.0
188	洋画	若林砂江子	Untitled[works3]	2002-04	油彩・画布	198.0×198.0
189	洋画	若林砂江子	Untitled[works8]	2002-04	油彩・画布	161.0×129.0
190	洋画	若林砂江子	Untitled[works9]	2002-04	油彩・画布	161.0×129.0
191	洋画	若林砂江子	Untitled[works11]	2002-04	油彩・画布	195.0×115.0
193	その他	中村宏関係 資料(ファイル 1～5)	ドローイング、銅版画、印刷物、コピーほか137件			

■(3)寄託作品 325点

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
1	日本画	仲山計介	エオンタNo.7410	1974	麻紙、シルクスクリーン、岩絵具、アクリル絵具、アクリル樹脂	224.0×162.0
2	日本画	仲山計介	エオンタNo.6002	1985	麻紙、胡粉、岩絵具、箔、アクリル絵具、アクリル樹脂	182.0×227.3
3	日本画	仲山計介	エオンタNo.6003	1985	麻紙、胡粉、岩絵具、箔、アクリル絵具、アクリル樹脂	182.0×227.3
4	日本画	仲山計介	エオンタNo.8801	1988	麻紙、岩絵具、箔、アクリル絵具、アクリル樹脂	226.0×339.0
5	日本画	仲山計介	日月山水図	1992	麻紙、岩絵具、箔、アクリル絵具、アクリル樹脂	215.0×366.0
6	日本画	仲山計介	エオンタ	1973	紙、胡粉、岩絵具、アクリル絵具、アクリル樹脂	112.0×324.0
7	日本画	仲山計介	エオンタNo.5401	1979	麻紙、岩絵具、箔、アクリル絵具、アクリル樹脂	172.4×279.2
8	日本画	仲山計介	エオンタNo.9001	1990	麻紙、胡粉、岩絵具、アクリル絵具	225.0×320.0
9	日本画	仲山計介	蜻蛉島屏風	1993	麻紙、岩絵具、箔、アクリル絵具、アクリル樹脂	160.0×696.0
10	洋画	大沢三之助	日光含満(憾満ガ淵)	1890	水彩・紙	
11	洋画	大沢三之助	小田代ヶ原	1892	水彩・紙	32.5×25.1
12	洋画	大沢三之助	夏日	1892	水彩・紙	21.5×29.7
13	洋画	大沢三之助	柴刈		水彩・紙	25.0×21.5
14	洋画	大沢三之助	菊花と手桶		水彩・紙	26.1×19.0
15	洋画	大沢三之助	芥子	1896	水彩・紙	33.1×24.5
16	洋画	大沢三之助	風景	1897	水彩・紙	30.0×22.0
17	洋画	大沢三之助	竹林春景	1898	水彩・紙	24.0×33.0
18	洋画	大沢三之助	団子坂田浦	1901	水彩・紙	25.8×34.4
19	洋画	大沢三之助	日光戦場ヶ原	1903	水彩・紙	24.0×31.8
20	洋画	大沢三之助	雨		水彩・紙	21.0×14.1
21	洋画	大沢三之助	戦場ヶ原冬景		水彩・紙	24.5×33.0
22	洋画	大沢三之助	日光中禅寺湖之景		鉛筆、水彩・紙	26.0×34.5
23	洋画	大沢三之助	霧景色		水彩・紙	19.0×26.5
24	洋画	大沢三之助	秋雲		水彩・紙	19.5×33.1
25	洋画	大沢三之助	秋		水彩・紙	33.0×19.7
26	洋画	大沢三之助	中禅寺湖		水彩・紙	20.0×23.3
27	洋画	大沢三之助	富士遠望		水彩・紙	20.0×33.1
28	洋画	大沢三之助	小川		水彩・紙	21.2×30.3
29	洋画	大沢三之助	橋		水彩・紙	17.5×26.5
30	洋画	大沢三之助	風景 素描		コンテ・紙	19.2×29.1
31	洋画	大沢三之助	外国風景 素描2	1897頃	鉛筆・紙	14.6×19.1
32	洋画	大沢三之助	外国風景 素描	1897	鉛筆・紙	12.3×20.0
33	洋画	大沢三之助	英国婦人 素描	1908	鉛筆・紙	17.8×11.9
34	洋画	大沢三之助	少女 素描 1(オンスロー・スタジオにて)	1908	鉛筆・紙	35.8×25.5
35	洋画	大沢三之助	少女 素描 2(オンスロー・スタジオにて)	1908	鉛筆・紙	35.5×25.4
36	洋画	大沢三之助	竹林 素描		水墨・紙	35.5×25.4
37	洋画	大沢三之助	水面		水墨・紙	11.9×19.4
38	洋画	大沢三之助	里山 素描		鉛筆・紙	26.7×26.0
39	洋画	大沢三之助	林間の花		墨画・紙	14.2×19.2
40	洋画	大沢三之助	池畔		墨画・紙	24.5×32.2
41	洋画	大沢三之助	夕暮れ	1908	水彩・紙	26.7×26.0

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)	
42	洋画	大沢三之助	寒緋桜		水彩・紙	22.3×31.2	
43	洋画	大沢三之助	椿花	1889	水彩・紙	19.1×14.7	
44	洋画	大沢三之助	和室		水彩・紙	19.0×28.2	
45	洋画	大沢三之助	留学スケッチ(シート状態のもの)		水彩・紙		
46	洋画	大沢三之助	スケッチブック10冊		水彩・紙		
47	洋画	大沢昌助	ひなげし	1921	水彩・紙	32.0×23.8	
48	洋画	大沢昌助	椿と小像のある静物	1921	水彩・紙	22.2×27.0	
49	洋画	大沢昌助	桌上的椿	1921	水彩・紙	23.4×30.3	
50	洋画	大沢昌助	白い薔薇	1921	水彩・紙	23.0×16.3	
51	洋画	大沢昌助	びわ	1922	水彩・紙	17.3×26.7	
52	洋画	大沢昌助	静物(りんご)	1923	水彩・紙	23.5×32.5	
53	洋画	大沢昌助	湖畔の夕	1921	水彩・紙	25.2×33.0	
54	洋画	大沢昌助	岬	1922	水彩・紙	23.0×31.9	
55	洋画	大沢昌助	厨房静物	1920	水彩・紙	23.1×30.2	
56	洋画	大沢昌助	盆と水差し	1922	水彩・紙	24.0×33.0	
57	洋画	大沢昌助	水浴の少年習作		水彩・紙		
		森井荷十コレクション(213点)					
		肉筆画					
58	日本画	橋本関雪	暁江帆影		絹本着色一幅	35.8×43.6	
59	日本画	榊原紫峰	墨竹八々鳥図		紙本墨画淡彩一幅	33.1×22.0	
60	日本画	山口蓬春	松原図		絹本着色一幅	30.3×21.6	
61	日本画	寺崎広業	水墨山水		絹本墨画一幅	27.4×19.2	
62	日本画	小杉放庵	松下人	1932	紙本墨画淡彩一幅	134.7×31.3	
63	日本画	小川千甕	水田里		紙本着色一幅	44.5×52.3	
64	日本画	菅橋彦	住吉小集楽の図	1920	紙本淡彩一幅	144.6×40.5	
65	日本画	青木大乗	白菜の図		絹本着色一幅	34.5×49.9	
66	日本画	大樹	後三年の役		絹本着色一幅	112.0×41.0	
67	日本画	池田輝方	保名		紙本着色一幅	120.3×30.6	
68	日本画	池田輝方・蕉	元禄美人		紙本着色双幅	126.2×30.0	
69	日本画	鏑木清方	春風春水		紙本淡彩一幅	123.5×31.5	
70	日本画	鏑木清方	朧駕籠	1907	絹本着色一幅	110.7×42.1	
71	日本画	島田墨仙	草叢蛙鳴		絹本着色一幅	124.0×41.8	
72	日本画	島田墨仙	豊干禅師図	1926	絹本着色一幅	125.0×41.6	
73	日本画	富岡鉄斎	東坡壁画図	1917	紙本着色一幅	137.5×34.3	
74	日本画	木村莊八	越後獅子	1931	紙本淡彩一幅	118.2×27.1	
75	日本画	木村莊八	三番叟		紙本淡彩一幅	33.6×50.6	
76	日本画	矢沢弦月	初冬		紙本淡彩一幅	134.7×31.6	
		肉筆・浮世絵・複製版画など					
77	日本画	台水?	月明風清		紙本肉筆	15.4×28.9	
78	日本画	北澤楽天	東京遷都		紙本淡彩	30.0×42.0	
79	日本画	柴田是真	亀に杯		紙本扇面彩色	14.3×41.0	
80	日本画	不明	大津絵 若衆鷹狩り		紙本淡彩	25.4×16.8	
81	その他	不明	色紙百人一首 第一集	1931	木版画 5枚	21.6×36.8	
82	その他	宮尾しげを編	諸國小絵馬集	1943	肉筆貼込本	32.4×23.8	
83	その他	宮尾しげを編	諸国おもちゃ暦	1940	肉筆貼込本	35.8×22.4	
84	その他	宮尾しげを編	常武両毛絵馬図集	1939	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
85	その他	宮尾しげを編	両毛常武絵馬図集	1940	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
86	その他	宮尾しげを編	讃岐絵馬図集 絵馬集成第二編	1940	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
87	その他	宮尾しげを編	所澤産絵馬図集	1941	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
88	その他	宮尾しげを編	諸國小絵馬図集	1942	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
89	その他	宮尾しげを編	版画絵馬集	1942	版画貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
90	その他	宮尾しげを編	諸国の小絵馬 二	1942	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
91	その他	宮尾しげを編	足利地方絵馬図集	1940	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
92	その他	宮尾しげを編	版画絵馬集	1940	版画貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
93	その他	宮尾しげを編	八王子 木下高助小絵馬図集	1940	肉筆貼込本(10冊帙入りの内)	32.5×23.5	
94	版画	溪斎英泉	七福神		木版画	掛物絵	
95	版画	歌川広重	江戸十二景 日本橋雪晴		木版画	小判	
96	版画	歌川広重	不忍池		木版画(貼交絵の一部か)	17.6×16.4	
97	版画	歌川広重	紫陽花と芙蓉		木版画(貼交絵の一部か)	17.0×24.0	
98	版画		江戸名所十二景 三緑山の真景		木版画	小判	
99	版画	昇斎一景	東京名所三十六戯撰 つきし海軍所		木版画	大判	
100	版画	喜多川歌麿	せいしの御縁日		木版画(複製版画)	39.1×26.5	
101	版画	喜多川歌麿	蚊帳の中の男女		木版画(複製版画)	38.8×25.5	
102	版画	喜多川歌麿	海女		木版画(複製版画)	38.7×26.5(各)	

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
103	版画	喜多川歌麿	婦女人相十品		木版画(複製版画)	38.9×26.0
104	版画	喜多川歌麿	襟白粉		木版画(複製版画)	39.9×26.0
105	版画	喜多川歌麿	梳る美人		木版画(複製版画)	38.3×26.8
106	版画	喜多川歌麿	煙草を吸う美人		木版画(複製版画)	38.9×26.4
107	版画	喜多川歌麿	婦人相学壺拾体		木版画(複製版画)	38.6×28.5
108	版画	磯田湖龍斎	風流五色小袖 赤色		木版画(複製版画)	37.0×24.6
	明治の版画					
109	版画		根津神社	明治	木版画	小判
110	版画		川口善光寺	明治	木版画	小判
111	版画	井上安治	池の端雪	明治	木版画	小判
112	版画		上野御霊屋	明治	木版画	小判
113	版画		向島夜桜	明治	木版画	小判
114	版画	小林清親	両国橋焼跡	明治	木版画	小判
115	版画		五本松雨月	明治	木版画	小判
116	版画		九段坂	明治	木版画	小判
117	版画		駿河町夜景	明治	木版画	小判
118	版画		海運橋	明治	木版画	小判
119	版画		〇〇〇夜景	明治	木版画	小判
120	版画		〇丁川岸より本所一ノ橋	明治	木版画	小判
121	版画	井上安治(探)	二重橋	明治	木版画	小判
122	版画		築地門跡ノ遠景	明治	木版画	小判
123	版画		洲崎	明治	木版画	小判
124	版画		鎧橋	明治	木版画	小判
125	版画		谷中大王寺	明治	木版画	小判
126	版画		吾妻橋	明治	木版画	小判
127	版画		本所割下水	明治	木版画	小判
128	版画		上野動物園	明治	木版画	小判
129	版画	井上安治(探)	浅草奥山図	明治	木版画	小判
130	版画		湯島天神	明治	木版画	小判
131	版画		向島桜	明治	木版画	小判
132	版画		浅草橋之景	明治	木版画	小判
133	版画		深川仙台掘	明治	木版画	小判
134	版画		鎧橋之景	明治	木版画	小判
135	版画		橋場ノ渡し	明治	木版画	小判
136	版画		久松町千歳座	明治	木版画	小判
137	版画		飛鳥山	明治	木版画	小判
138	版画		本丸三十櫓	明治	木版画	小判
139	版画	井上安治	愛宕山	明治	木版画	小判
140	版画		道灌山下	明治	木版画	小判
141	版画	井上安治(探)	永代遠景	明治	木版画	小判
142	版画	井上安治(探)	吾妻橋	明治	木版画	小判
143	版画		赤坂紀伊国坂	明治	木版画	小判
144	版画		水道橋	明治	木版画	小判
145	版画		両国百本杭之景	明治	木版画	小判
146	版画		京橋	明治	木版画	小判
147	版画	井上安治	枕橋	明治	木版画	小判
148	版画	井上安治	万年橋ヨリ大橋	明治	木版画	小判
149	版画	井上安治	千住ラシヤ製造場	明治	木版画	小判
150	版画	井上安治	厩橋	明治	木版画	小判
151	版画	井上安治	大川端石原橋	明治	木版画	小判
152	版画	井上安治	浅草東門跡	明治	木版画	小判
153	版画	井上安治	神田川駿河台	明治	木版画	小判
154	版画	井上安治	外桜田遠景	明治	木版画	小判
155	版画	井上安治	鍛冶屋橋遠景	明治	木版画	小判
156	版画	井上安治	竹橋内	明治	木版画	小判
157	版画	井上安治	本所枕橋ヅメ	明治	木版画	小判
158	版画	井上安治	三ツ又永代	明治	木版画	小判
159	版画	小林清親	湯島〇聖堂之景	1879	木版画	大判
160	版画	井上安治	京橋松田之景	1884	木版画	大判
161	版画	小林清親	大川端石原橋	1880	木版画	大判
162	版画		(隅田川風景)		木版画	大判
163	版画		(紅葉狩り)		木版画	大判
164	版画	小林清親	従 箱根山中富嶽眺望	1880	木版画	大判
165	版画	小林清親	せんほん杭両国橋		木版画	大判

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
166	版画	小林清親	駿河町雪		木版画	大判
167	版画	小林清親	久松町に見る出火		木版画	大判
168	版画	小林清親	根津神社秋色		木版画	大判
169	版画	小林清親	神田神社暁		木版画	大判
170	版画	小林清親	神田川中州水雷火		木版画	大判
171	版画	小林清親	今戸有明楼酒宴之図		木版画	大判
172	版画	小林清親	萬代橋朝日出		木版画	大判
173	版画	小林清親	〇〇雪晴		木版画	大判
174	版画	小林清親	東京両国百本杭暁之図		木版画	大判
175	版画	小林清親	池の端弁天		木版画	大判
176	版画	小林清親	川崎月海		木版画	大判
177	版画	小林清親	柳島日没		木版画	大判
178	版画	小林清親	大川富士見渡		木版画	大判
179	版画	小林清親	五本松雨月		木版画	大判
180	版画	小林清親	大森朝之海		木版画	大判
181	版画	小林清親	日本橋夜		木版画	大判
182	版画	小林清親	大伝馬町大丸		木版画	大判
183	版画	小林清親	江戸橋夕暮富士		木版画	大判
184	版画	小林清親	三ツ又永代橋〇〇		木版画	大判
185	版画	小林清親	高輪半町朧月景		木版画	大判
186	版画	小林清親	久松町二見る出火		木版画	大判
187	版画	小林清親	御茶ノ水蛭		木版画	大判
188	版画	小林清親	芝〇増上寺日中		木版画	大判
189	版画	小林清親	堀切花菖蒲		木版画	大判
190	版画	小林清親	第二回内国勸業博覧会内美術館噴水		木版画	大判
191	版画		靈巖島高橋の景		木版画	大判
192	版画	小林清親	九段坂五月夜		木版画	大判
193	版画	小林清親	二重橋		木版画	大判
194	版画	小林清親	両国焼跡		木版画	大判
195	版画	小林清親	亀戸梅屋敷		木版画	大判
196	版画	小林清親	東京橋場渡黄昏景		木版画	大判
197	版画	小林清親	亀戸藤		木版画	大判
198	版画	小林清親	川口善光寺雨晴		木版画	大判
199	版画	小林清親	(両国広小路 きれんくりん)		木版画	大判
200	版画	小林清親	小梅曳舟通雪景		木版画	大判
201	版画	小林清親	柳島夜雨		木版画	大判
202	版画	小林清親	隅田川枕橋前		木版画	大判
203	版画	小林清親	赤坂紀伊国坂		木版画	大判
204	版画	小林清親	橋場の夕景		木版画	大判
205	版画	小林清親	(橋場の夕景)		木版画	大判
206	版画	小林清親	常盤橋内紙幣寮之図		木版画	大判
207	版画	小林清親	両国花火之図		木版画	大判
208	版画	小林清親	上野東照宮積雪之図		木版画	大判
209	版画	小林清親	神田川夕景		木版画	大判
210	版画	小林清親	浅草寺年乃市		木版画	大判
211	版画	小林清親	元柳橋両国遠景		木版画	大判
212	版画	小林清親	日本名勝図会 猿橋		木版画	大判
213	版画	小林清親	日本名勝図会 常陸桜川より筑波山を眺む		木版画	大判
214	版画	小林清親	武蔵百景 王子稲荷社		木版画	大判
215	版画	小林清親	武蔵百景 鉄砲洲高橋佃島遠景	1884	木版画	大判
216	版画	小林清親	武蔵百景之内 鴻台 市川の遠景		木版画	大判
217	版画	小林清親	狐		木版画	大判
218	版画		吾妻橋真景		銅版画	小判
219	版画		九段招魂社真景		銅版画	小判
220	版画		向島ヨリ真乳山真景		銅版画	小判
221	版画		上野不忍池真景		銅版画	小判
	創作版画					
222	版画	戸張弧雁	御宿の浜	1921	木版画	
223	版画	小野忠重	青森木造町	1938	木版画	26.6×34.0
224	版画	小野忠重	隅田公園	1935	木版画	24.7×30.3
225	版画	小野忠重	木曾路	1936	木版画	2478×31.0
226	版画	小野忠重	隅田川ノ橋(駒形橋)	1933頃	木版画	24.8×31.7

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
227	版画	小野忠重	塔のある風景	1936	木版画	24.8×31.4
228	版画	小野忠重	浦安川岸	1935	木版画	25.0×32.4
229	版画	小野忠重	ガス工場	1934	木版画	25.0×31.5
230	版画	小野忠重	瓦斯工場	1933	木版画	25.0×31.3
231	版画	小野忠重	橋へ出る道	1936	木版画	24.7×31.3
232	版画	小野忠重	工場(原題 空地と工場)	1936	木版画	25.9×31.4
233	版画	小野忠重	火の見の川岸	1936	木版画	25.0×31.2
234	版画	小野忠重	暗き海景	1936	木版画	24.9×30.9
235	版画	小野忠重	銀座裏	1936	木版画	24.5×30.6
236	版画	小林朝治	千曲川清月	1933	木版画	21.3×26.4
237	版画	小林朝治	飯山葵城趾の桜		木版画	18.9×24.6
238	版画	小林朝治	臥竜山雪景		木版画	16.0×18.5
239	版画	小林朝治	正受庵降雪		木版画	23.1×25.0
240	版画	小林朝治	梅		木版画	26.6×18.4
241	版画	小林朝治	枇杷		木版画	27.4×19.7
242	版画	小林朝治	枇杷		木版画	24.4×16.6
243	版画	小林朝治	無花果		木版画	27.5×19.7
244	版画	小林朝治	枇杷 台紙	1931	木版貼付	24.5×17.0
245	版画	小林朝治	犬の尾		木版画	16.5×12.3
246	その他	新版画集団	『最近版画界の動き』		ガリ版	24.4×16.8
247	その他		作品名メモ書き		肉筆	19.4×21.9
248	その他		第七回十人社展覧会目録		印刷	15.7×48.3
249	その他	森井荷十	「小林氏の版画」		原稿	19.4×26.9
250	その他		「信濃杏林美術協会 第一回展覧会」	1938	印刷	13.7×39.3
251	その他	小林朝治	葉書(小林朝治→森井荷十)	1939	葉書	14.0×9.1
252	その他	小林朝治	葉書(小林朝治→森井荷十)	1938	葉書	14.0×9.0
253	その他	小林朝治	葉書(小林朝治→森井荷十)	1939	葉書	14.0×9.0
254	版画	武藤六郎	お濠にて		木版画	24.2×33.7
255	版画	武藤六郎	夜の日本橋		木版画	24.9×33.6
256	版画	武藤六郎	南国草花		木版画	33.0×25.0
257	版画	武藤六郎	海沿ひの道		木版画	33.5×24.1
258	版画	武藤六郎	母島沖港		木版画	24.0×33.4
259	版画	武藤六郎	島の見える段島		木版画	24.0×33.3
260	版画	武藤六郎	岩陰に実るパパイヤ		木版画	24.0×33.2
261	版画	武藤六郎	森蔭の女		木版画	24.1×33.9
262	版画	武藤六郎	教会暮色		木版画	27.0×33.5
263	版画	武藤六郎	タコの木の有る泉		木版画	24.0×33.5
264	版画	武藤六郎	女と花		木版画	24.1×33.6
265	版画	小早川清	近代時世粧ノ内二 化粧	1930	木版画	52.8×30.5
266	版画	藤田嗣治	新時代粧版画 金髪		木版画	39.8×26.1
267	版画	藤田嗣治	新時代粧版画 或る女		木版画	39.8×27.1
268	版画	小早川清	新時代粧版画 湯上り		木版画	41.0×25.8
269	版画	小早川清	新時代粧版画 髪		木版画	40.3×25.2
270	日本画	石山太柏	里の秋	1918	絹本着色	129.0×51.5
271	日本画	野崎 貢	冬の花		紙本着色	59.5×44.5
272	工芸	大坂弘道	神代杉黄楊木飾箱	1971	黄楊材	12.5×22.4×3.5
273	工芸	大坂弘道	楓剝短冊箱	1972	楓材	8.2×40.7×4.2
274	工芸	大坂弘道	神代杉八稜之箱	1976	杉材	22.8×10.0
275	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染八角経筒	1976	黒柿材	7.3×39.0
276	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染螺鈿短冊箱	1977	黒柿材	10.4×40.7×5.8
277	工芸	大坂弘道	神代杉木画箱	1979	杉材	28.0×31.3×15.4
278	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染木画箱	1980	黒柿材	10.0×39.5×12.5
279	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染木画箱	1981	黒柿材	20.5×37.2×14.0
280	工芸	大坂弘道	枳造剝筆箱	1983	枳材	10.8×26.2×8.3
281	工芸	大坂弘道	紫檀木画箱 (正倉院御物 摸造)	1985	紫檀材	23.5×42.4×15.1
282	工芸	大坂弘道	桐入隅箱	1985	桐材	12.5×16.8×13.2
283	工芸	大坂弘道	桐剝蓋物	1985	桐材	25.0×25.0×10.8
284	工芸	大坂弘道	枳造剝短冊箱	1985	枳材	10.0×39.5×1.8
285	工芸	大坂弘道	黒柿小箱	1988	黒柿材	9.0×14.4×13.3
286	工芸	大坂弘道	黒柿小箱	1988	黒柿材	9.0×24.5×13.0
287	工芸	大坂弘道	蓮弁唐草透香盤	1991	青朴材	14.0×22.0×3.0
288	工芸	大坂弘道	花葉文嵌荘筆箱	1992	青朴材	10.4×29.4×8.0
289	工芸	大坂弘道	黒柿小箱	1993	黒柿材	8.8×21.2×14.7

	分野	作家名	作品名	制作年	材質技法	・サイズ(cm)
290	工芸	大坂弘道	黒柿印箱	1994	黒柿材	8.3×20.5×23.5
291	工芸	大坂弘道	黒柿小箱	1994	黒柿材	19.0×9.2×17.6
292	工芸	大坂弘道	唐草文嵌荘筆箱	1994	黒柿材	8.0×30.0×9.0
293	工芸	大坂弘道	紺牙撥鏤尺(正倉院御物 模造)	1995	象牙材	23.5×42.2×15.1
294	工芸	大坂弘道	唐草文嵌荘筆箱	1995	黒柿材	7.8×29.5×7.0
295	工芸	大坂弘道	罔文嵌荘筆箱	1996	黒柿材	18.7×30.0×3.0
296	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染嵌荘花形筆架	1998	黒柿材	10.3×30.0×2.1
297	工芸	大坂弘道	唐花文嵌荘箱	1998	黒柿材	7.4×7.0×14.6
298	工芸	大坂弘道	螺鈿荘文鎮	1998	神代樺	2.8×21.8×3.2
299	工芸	大坂弘道	宝相華嵌荘花形香座	1999	黒柿材	14.7×23.3×2.4
300	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染宝相華文嵌荘花形香座	2000	黒柿材	14.9×24.0×1.7
301	工芸	大坂弘道	蓮弁唐草文透嵌荘合子	2001	黒柿材	17.6×27.0×4.2
302	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染宝相華文嵌荘箱	2002	黒柿材	10.3×20.1×8.3
303	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染宝相華文嵌荘箱	2002	黒柿材	11.0×20.7×9.0
304	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染宝相華文嵌荘花形盒子	2002	黒柿材	15.0×23.1×2.3
305	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染宝相華文嵌荘花形香座	2002	黒柿材	13.2×24.1×4.2
306	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染唐草文嵌荘飾箱「船内」	2003	黒柿材	11.1×22.1×9.3
307	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染草花文嵌荘花形香座	2005	黒柿材	27.5×16.8×2.5
308	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染拭漆宝相華文嵌荘蓮弁形盒子「崑崙華」	2005	黒柿材	9.9×26.6×2.9
309	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染拭漆宝相華文嵌荘蓮弁形盒子「天山華」	2005	黒柿材	10.0×26.0×2.8
310	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染拭漆罔文雲文嵌荘香盒子「天神」	2006	黒柿材	9.6×25.5×5.0
311	工芸	大坂弘道	白檀唐草文透八曲盒子「香華」	2007	白檀材	7.0×16.5×4.0
312	工芸	大坂弘道	黄楊木唐草文透盒子「青雲」	2007	黄楊材	7.0×18.0×4.8
313	工芸	大坂弘道	黄楊木宝相華透香盒「香雨」	2008	黄楊材	7.0×8.5×10.7
314	工芸	大坂弘道	白檀錫嵌荘香座「天舞」	2008	白檀材	7.5×17.9×2.1
315	工芸	大坂弘道	黄楊木宝相華透香盒「打吹」	2008	黄楊材	6.0×14.1×7.8
316	工芸	大坂弘道	黒柿蘇芳染拭漆宝相華文嵌荘稜花形香座「幻華」	2008	黒柿材	11.0×21.4×2.2
317	洋画	若林砂江子	Untitled[works1]	2002-04	油彩・画布	179.0×179.5
318	洋画	若林砂江子	Untitled[works2]	2002-04	油彩・画布	200.0×202.0
319	洋画	若林砂江子	Untitled[works4]	2002-04	油彩・画布	198.0×198.0
320	洋画	若林砂江子	Untitled[works5]	2002-04	油彩・画布	206.0×198.0
321	洋画	若林砂江子	Untitled[works6]	2002-04	油彩・画布	128.0×193.0
322	洋画	若林砂江子	Untitled[works7]	2002-04	油彩・画布	197.0×197.0
323	洋画	若林砂江子	Untitled[works10]	2002-04	油彩・画布	194.0×129.0
324	洋画	若林砂江子	Untitled[works12]	2008	油彩・画布	195.0×115.0
325	洋画	若林砂江子	Untitled[works13]	2008	油彩・画布	195.0×115.0

平成22年度収蔵品貸出一覧

貸出先	展覧会名	貸出期間	作家名	作品名	制作年	素材
山梨県立美術館	池田龍雄ーアヴァンギャ ルドの軌跡展	平成22年6月1 日～平成23年 3月31日	池田龍雄	十字路	1952	油彩
				空中楼閣	1952	インク
夜(犬)				1957	インク他	
つくも神				1955	インク他	
賑やかな人々				1956	油彩	
川崎市岡本太郎 美術館						
安曇野高橋節郎 記念美術館	九室の風を浴び 山口長 男・齊藤義重・吉原治良 と、高橋節郎展	平成22年7月6 日～9月3日	山口長男	作品	1940～ 50	油彩
				作品	1952	油彩
				野形	1960	油彩
静岡県立美術館	ロボットと美術	平成22年9月 ～平成23年2 月	中村宏	似而非機械	1971	油彩
島根県立石見美 術館						

平成22年度「ホームページ」、「美術館収蔵品データベース」に対する反響

当美術館では、区ホームページ上に展覧会情報等を掲載している。

また、当美術館の収蔵美術品をデジタルデータベース化し、パソコン端末での管理とともに、区民をはじめ広く学校教育、生涯学習等の現場で利用していただく目的で、平成16年度末(平成17年3月)に整備した。今年度は50点の画像データを追加し、全収蔵作品のデジタル化に向けその環境整備を図る。

以下は、平成22年度のWebサーバへのアクセス件数

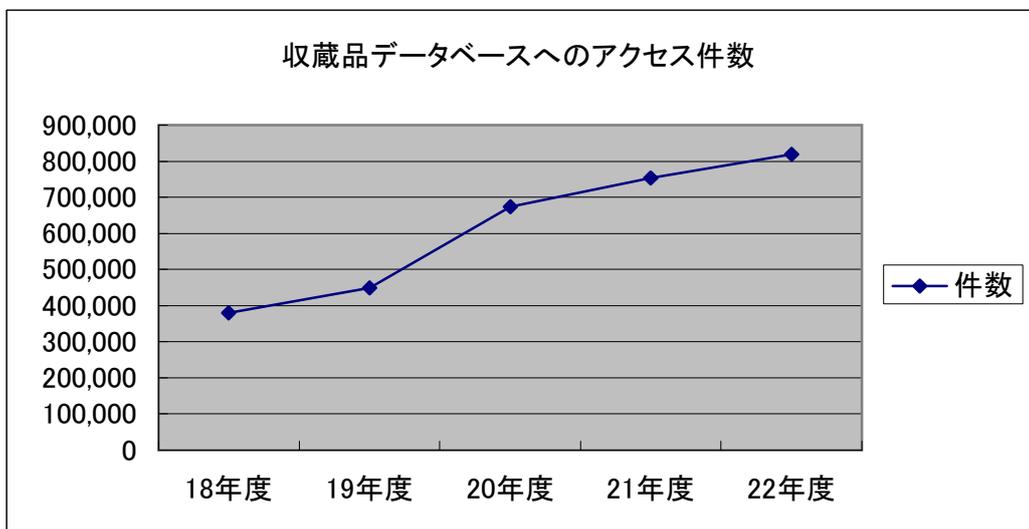
	美術館トップページ		データベース
4月	2,147件	—	54,483件
5月	2,811件	—	74,024件
6月	3,362件	—	55,436件
7月	4,711件	11位	56,847件
8月	10,979件	1位	64,042件
9月	4,335件	10位	68,200件
10月	9,560件	3位	57,033件
11月	4,201件	6位	59,732件
12月	4,516件	14位	64,566件
1月	5,427件	11位	71,463件
2月	11,415件	2位	98,896件
3月	22,404件	11位	94,792件

※美術館トップページアクセス数

同じページに対する有効なアクセスを集計している。庁内からのアクセスは、集計結果に含んでいない。

合計 85,868件 819,514件
 平均 (7,156件/月) (68,292件/月)

(平成21年度 752,795件 (平均 62,733件/月))



平成22年度 施設利用状況

1 施設利用状況

(1) 展示室

区 分	展覧会回数	利用日数(日)	観覧者数(人)	利用可能日数(日)	利用率(%)
一般展示室	47	240	22,376	251	95.6
企画展示室	5	30	4,735	30	100.0
合計	52	270	27,111	281	96.1

(2) 創作室

利用団体	利用件数(件)	月平均件数(件)	利用人数(人)	利用可能件数(件)	利用率(%)
17	324	27	5,414	440	73.6

2 施設申込状況

区 分		年度総件数	月平均件数	倍 率
一般展示室	申込	153	12.8	最高 5.33倍
	当選	47	3.9	平均 3.26倍
企画展示室	申込	9	—	6・7月の一部貸出 ※抽選は平成21年12月および平成22年1月に行った。 倍率 2.25倍
	当選	4	—	

※展示室の抽選は利用日の6ヶ月前

東日本大震災への対応

- 1 休館
平成 23 年 3 月 15 日(火)～22 日 (火) 23 日(水)再開
 - 2 グランヴィル展の終了延期
平成 23 年 4 月 3 日(日)から 10 日(日)に 1 週間延期
 - 3 鹿島茂氏講演会「グランヴィル狂—グランヴィルのものなら何でも蒐めたい」
平成 23 年 3 月 12 日(土)から 4 月 10 日 (日) に延期
 - 4 高階秀爾氏講演会「描かれた人間喜劇—19 世紀パリの版画ワールド」
平成 23 年 3 月 20 日(日)開催予定を中止
 - 5 グランヴィル展関連ワークショップ「美術館のポスターデザインについて」
平成 23 年 3 月 26 日(土)開催予定を中止
 - 6 グランヴィル展に展示のエミール・ガレ作品 (4 点) の撤去
 - 7 PLATFORM 展の開始日の延期
平成 23 年 4 月 9 日(土)から 16 日(土)に 1 週間延期
- ※ 展示室、収蔵庫に被害はなかった。
- ※ 節電対策として、展示室のスポットライトに LED を導入した。

PLATFORM 2011

浜田涼・小林耕平・鮫島大輔 — 距離をはかる —

開催要項

幅広い視野で現代美術の動向の一端を紹介する「PLATFORM」展。第2回目の本展は、「私」と“世界”との距離」をテーマとし、浜田涼（1966～）、小林耕平（1974～）、鮫島大輔（1979～）の展示を行った。浜田涼は、対象のあいまいな写真を用いて自身と世界との狭間を問い、小林耕平は明確でありながらつかみどころのない映像によって見るものに所在ない心持を与える。また鮫島大輔は物語を廃した日常の空間を、時にトリッキーに、時に淡々と掴み描きだすことにより、奇妙な世界観を生み出している。これら作家に共通するものとして、自身とそのまわりに在る世界との距離感を推し量る姿勢が見られる。本展は、鑑賞者が自身を取り巻く空間について「現代美術で考え」「現代美術を実感する」場の提供を行うことを目的とした。

会期	平成23年4月16日（土）～5月29日（日）（38日間） ※震災の影響により開始日が9日から16日に変更。会期を1週間短縮した。
主催	練馬区立美術館
内容	浜田：平面作品53点 小林：映像作品6点、映像を含むインスタレーション1点 鮫島：平面作品約14点、立体作品約14点
図録	1作家1冊（3種）の図録を作製した。
観覧料	有料（一般500円）
イベント	各作家によるギャラリートーク（計3回） 3作家と担当学芸員によるクロストーク（1回） 親子向け鑑賞プログラム（1回） 小林耕平とcore of bellsによるパフォーマンス（計2回） 東山佳永(踊り手)と橋本和昌(作曲家/演奏家)によるライブパフォーマンス（1回） 斉藤由香氏による講演会（1回）
観覧者数	2,384人（63人/日） ※当初見込 3,080人（44日間、70人/日）
担当	学芸員補 真子みほ

特集展示 うす羽の幻想 鏑木昌弥展

開催要項

- 1 開催趣旨 画家・鏑木昌弥（かぶらぎ・まさや）は、1938年に東京生まれ、1962年多摩美術大学油画科を卒業。人形劇団に所属し、人形やアニメーションの美術制作、絵本の挿絵画などに携わりながら、画家としての活動をスタートします。1963年から前衛美術展に出品、1970年からは前衛美術会から改組した「齧展」に中村宏らとともに参加しました。はじめは油彩画を描いていた鏑木ですが、はやくから画材としての鉛筆に価値を見出し、モノクロームに近い禁欲的な画面を手に入れます。細部の集積でできあがったような緻密な描写には目を奪われることでしょう。それは、まるで1篇の詩を読んでいるかのごとく、彼の想像の世界に観るものを引きずりこむ力を持っています。鉛筆と共に、和紙に水彩絵具を使った作品なども、音のないスローモーションの映像を見ているかのような柔らかな詩情を感じさせます。

ながらく練馬区石神井に住んでいたことを機縁に、その画業を網羅するまとまった作品群がこの度、練馬区立美術館のコレクションに加わりました。そのなかから今展では49点の作品をセレクトし、鏑木昌弥の画業をご紹介します。
- 2 会 期 平成23年6月3日(金)～7月3日(日)
- 3 主催・会場 練馬区立美術館（2階常設展示室）
- 4 内 容 鏑木昌弥の油彩・水彩画、鉛筆画など作品49点
- 5 観覧料 無料
- 6 印刷物 出品作品の図版を掲載したA4四つ折りリーフレットを無料配布
- 7 イベント 学芸員によるギャラリートーク（予定）
6月4日（土） *手話通訳つき
6月11日（土） *ゲスト：鏑木昌弥（出品作家）
6月18日（土）、6月25日（土）、7月2日（土）
- 8 観覧者数 3,462人（128人/日） ※当初見込み 2,700人(100人/日)
- 9 担 当 学芸員 上山陽子

N+N 展 2011 生命を見つめる

開催要項

- 1 開催趣旨 練馬区にある唯一の美術系大学・日本大学芸術学部と練馬区立美術館の共同企画展の第3回展。高橋幸次教授のキュレーションにより「生命を見つめる」というテーマで開催。いまこのときに、美術や芸術は人々の心に響き、私たちが生きてゆくのを助ける力があると信じ、改めて生命そのものの力、いとおしさ、尊さを静かに見つめ考える。出品作品は美術学科の絵画・版画・彫刻のほか、さらに領域を広げデザイン、映画、写真学科からも参加し、命をみつめる幅広い表現が会場にならぶ。
- 2 会 期 平成23年6月23日(木)～7月3日(日)
- 3 主 催 日本大学芸術学部美術学科／練馬区立美術館
- 4 内 容 日大芸術学部の教員・卒業生と日藝コレクションなど、約80点の作品
【絵画】 設楽 俊／さとう陽子／宮崎健太郎／井上 誠／宮崎真弓
【版画】 笹井祐子／宮沢真徳／大場英二／鶴巻貴子／イシイヨシト／柿沼朋実／菊池史子／鈴木誠一
【彫刻】 鞍掛純一／内山翔二郎／正親優哉／平林 洋／深山香里／柳原義達
【デザイン】 木村政司
【映画】 奥野邦利／石井陽之／田中廣太郎
【写真】 鈴木孝史／小泉定弘／秋元貴美子
- 5 観覧料 無料
- 6 図録 展覧会終了後、日藝美術学科から記録集を作成予定
- 7 イベント シンポジウム「生きているって何だろうー生命を見つめて」
6月25日(土) 午後3時～5時 練馬区立美術館創作室 (先着50名)
パネリスト：高橋幸次(日本大学芸術学部美術学科教授)＋出品作家
- 8 観覧者数見込 1,168人(117人/日) ※当初見込み1,300人(130人/日)
- 9 担当 学芸員 上山陽子

特別展 磯江毅＝グスタボ・イソエ——マドリード・リアリズムの異才

開催要項(案)

- 1 開催趣旨 磯江毅(1954-2007)は大坂に生まれ、大坂市立工芸高校を卒業後間もなく単身でスペインに渡り、30年余りの長きにわたる滞西の間に油彩による写実絵画を探求した。やがてマドリード・リアリズムの重要な作家のひとりとして認められ、アントニオ・ロペス・ガルシアなどから高い評価を受けた。彼のリアリズム表現は文字通り事物の細部まで深く入り込んで具象的に描ききるだけでなく、現実世界が内包する神秘的なものまで捉えようとしているような精神の深まりを感じさせる。其の根底には生死をかかえこむ生き物への深い洞察と諦観が見て取れる。そして、生涯をかけた絵による存在探求の試みは、絵画の高みを示すものとして、死後もなお輝きを発し続けている。
本展は、磯江の初期から絶作までの代表作約80点とデッサン等40点をあわせた大々的な回顧展として彼の軌跡をたどるとともに、その稀有な画業を追想するものである。
- 2 会期 練馬区立美術館 2011年7月12日(火)～10月2日(日)
*その後奈良県立美術館(同年10月22日～12月18日)に巡回
- 3 主催 練馬区立美術館／朝日新聞社
- 4 協力 彩鳳堂画廊
- 5 後援 スペイン大使館
- 6 展示内容 「人物」1982年、「子供」1986年、「静物」1987年、
「白いセーターの少女坐像」1990年、「新聞紙の上の裸婦」1994年、
「虚栄と私」2001年、「マルメロⅡ」2004年、「鯛」2007年、
「横たわる女(未完)」2007年、他
- 7 図録 既存画集を再編集(美術出版社)
- 8 観覧料 有料
- 9 イベント 講演会、学芸員とゲスト・アーティストによる展示解説
ギャラリー・コンサートなど
- 10 観覧者見込 15,000人 (210人/日)
- 11 担当 学芸員 野地耕一郎

生誕130年 松岡映丘－日本の雅－「やまと絵」復興のトップランナー展

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 兵庫県福崎町に生まれた松岡映丘（まつおか・えいきゅう 1881～1938）は、儒者の父、国文学者で歌人の井上通泰、民俗学者の柳田国男、言語学者の松岡静雄らを兄にもつ学者一家に育つ。はじめ橋本雅邦に師事、後に山名貫義に入門し大和絵を学ぶ。東京美術学校を主席で卒業し、武者絵から画業をスタートするが、平安・鎌倉期の伝統的な大和絵や有職故実を丹念に研究し、修めていく姿勢は彼の育った家庭環境に由来していると考えられる。しかし、その表現は古典にはとどまらず、近代的な造形感覚を加味した「新興大和絵」を展開していく。その成果が「右大臣実朝」へと結実し、水谷八重子をモデルとした「千種の丘」でよりモダンな作品へと開花していくこととなる。「古典の教養に立脚して時代に生きよ」と弟子たちに語った言葉はまさに映丘の画業そのままを表している言葉といえよう。

この展覧会では映丘16歳の最初期の作品から晩年にわたる約70点の作品でその画業を紹介。加えて、映丘の生家に残されているスケッチ、画稿も合わせて展示し、その制作の原点、過程を探る。
- 2 会期 平成23年10月9日（日）～11月23日（水・祝）
*姫路市立美術館（4月16日～5月29日）、
島根県立美術館（6月10日～7月18日）で開催の後
- 3 主催 練馬区立美術館／日本経済新聞社
- 4 内容 掛軸、屏風等約70点とスケッチ、画稿など約30点
- 5 図録 3館共通図録を作製する。
- 6 観覧料 有料
- 7 イベント 講演会、ギャラリートークなど
- 8 観覧者見込 7,000人（180人／日）
- 9 担当 学芸員 野地耕一郎、加藤陽介

特集展示 スクラッチボードの第一人者 滝瀬 源一展

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 60年代から80年代にかけ、スクラッチボードの第一人者として活躍した滝瀬源一(1918～)の作品を展示する。スクラッチボードとは厚紙にインクを重ねたものであり、そのインクを削るように描くことで、小口木版の様な質感を持つ画面ができあがる。滝瀬はこの技法を用いて大衆小説や映画ポスターなどのイラストを多く手がけている。本展ではこれらの原画を中心に50点ほどの作品を紹介する。
- 2 会期 平成23年11月29日（火）～12月25日（日）
- 3 主催 練馬区立美術館
- 4 内容 滝瀬源一のスクラッチボードによる作品約50点
- 5 図録 作製しない（無料配布のリーフレットを作製）
- 6 観覧料 無料
- 7 イベント 会期中ギャラリートーク、鑑賞プログラム、実技講座等を実施する。
- 8 観覧者見込 2,400人（100人/日）
- 9 担当 学芸員 真子みほ

特集展示 昭和初期のサラリーマン・コレクター 森井荷十コレクション展

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 明治末から戦前にかけて活動した森井荷十（1885～1948）は近代川柳の先駆者として川柳史にその名を刻む作家であるが、私生活では勤続40年にも及ぶいちサラリーマンであった。荷十が昭和初め頃から収集したコレクションはそうした川柳作家、都市生活者として眼差しを感じさせるものである。近代都市の時世粧を綴った川柳作家らしくその内容は、江戸から移り行く東京の姿をとらえた小林清親（1847～1915）の木版画や近代都市を独特のタッチで捉えた小野忠重（1909～90）らの創作版画。鏑木清方（1878～1972）、橋本関雪（1883～1945）、木村荘八（1893～1953）ら当時人気の日本画家たちの肉筆画が中心となっている。こうした絵画作品とともに荷十の川柳や親交のあった作家たちの作品も併せて紹介する。サラリーマンコレクターのはしりとも言える荷十の蒐集品より、帝都東京のイメージを絵画・文学の両面から感じていただきたい。
- 2 会期 平成24年1月8日（日）～2月14日（火）
- 3 主催 練馬区立美術館
- 4 内容 日本画掛軸、版画等約50点
- 5 図録 リーフレットを作成する
- 6 観覧料 無料
- 7 イベント ギャラリートークなど
- 8 観覧者見込 7,040人（220人／日）
- 9 担当 学芸員 加藤陽介

特別展「中村正義—日本画壇の風雲児、新たなる全貌」

開催要項（案）

- 1 開催趣旨 戦後の日本画壇において、新時代に対応する新しい日本画改革の先頭に立って活躍した前衛日本画家・中村正義(1924～77)。若くして日展会員となりながら、1952年持病の肺結核が再発し療養生活を余儀なくされるが、1957年の日展から出品を再開。その後審査員にもなるが、61年には生来の批判精神と日本画壇の因襲への反発心から日展を脱退。

60年代以降は、画風を一転させ、絵具に蛍光塗料を混ぜて描いた《男と女》シリーズ、映画『怪談』のために描いた大作《源平海戦絵巻》などの前衛的な作品を制作して、在野の日本画家として活動を開始。1966年には、美術評論家・針生一郎の企画による「これが日本画だ！」展に参加する一方で、仏画や風景画という伝統的な画題でも独自の画風を探究した。74年には、社会的な意識の高い前衛画家によるグループ「从会」を結成、「黒い太陽・七人の画家—从展」を開催して、人間の「顔」に現われた心の闇を描いた作品群を発表。翌年には病苦に堪えながら、この从会を足掛かりに日展に対抗する展覧会として「東京展」を組織・開催。しかし、1977年に肺癌のため52歳の生涯を閉じた。

この展覧会は、かような日本画の既成概念を遥かに超越した多様多彩な作品を描いて、「日本画壇の風雲児」と呼ばれた中村正義の革新的画業のほぼ全貌を紹介する。

- 2 会期 練馬区立美術館 2012年2月19日(日)～4月1日(日)
*名古屋市美術館(2011年11月1日～12月25日)との共同開催
- 3 主催 練馬区立美術館／東京新聞社
- 4 協力 中村正義の美術館
- 5 図録 作成する
- 6 観覧料 有料
- 7 イベント 学芸員とゲスト・アーティストによる展示解説
- 8 観覧者数見込 7,000人 (190人/日)
- 9 担当 学芸員 野地耕一郎

平成23年度 教育普及事業計画(案)

※平成23年6月5日現在で終了している事業に関しては参加人数を明記した

館内事業

I) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

① 関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	松岡映丘展関連ワークショップ 鎧作り 講師:当館学芸員	10月	1回	未定	未定
2	滝瀬源一展関連 スクラッチボード講座 講師:未定	12月	1回	中学生以上	15名

② ギャラリートーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	PLATFORM展	4～5月(土)	4回	自由参加	延123名
2	鎚木昌弥展	6～7月(土)	4回	自由参加	延147名
3	磯江毅展	7～9月(土)	3回	自由参加	—
4	松岡映丘展	10～11月(土)	4回	自由参加	—
5	コレクション展 滝瀬源一	12月(土)	2回	自由参加	—
6	森井荷十展	1～2月(土)	2回	自由参加	—
7	中村正義展	2～4月(土)	4回	自由参加	—

③ コンサート・ライブパフォーマンス

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	PLATFORM展関連ライブパフォーマンス 「near, far, near, far」 出演:東山佳永(踊り手/artist)×橋本和昌(作曲家/演奏家)	4月17日(日) 14:00～14:30	1回	自由参加	60名
2	PLATFORM展関連パフォーマンス 「運送としょうゆとかぐや姫と先生とライオンと吉田くん」 出演:小林耕平×core of bells	4月23日(土)、 5月7日(土)	2回	自由参加	延113名
3	東日本大震災復興支援チャリティ公演「つながる命」 出演:バレエ団ピッコロ、城田佐和子、阿部友紀子	6月26日(日)	1回	自由参加	180名

④ 鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	PLATFORM展関連トコトコ美術館vol.5「もののかたち」	5月14日(土) 15:00～16:00	1回	3歳～小学1年生+保護者	5組12名
2	トコトコ美術館	8、12月	2回	3歳～小学1年生+保護者	各回5組
3	拡大!美術館	8、12月	2回	小学2年生以上	各回5名

⑤ 講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	「PLATFORM展」開催記念 特別講演会 「心とカラダの健康セミナー どくとるマンボウ家の素顔」 講師:斉藤由香(サントリー窓際OL・エッセイスト)	5月21日(土) 16:00～17:30	1回	中学生以上	70名
2	N+N展シンポジウム	6月25日(土)	1回	中学生以上	57名
3	磯江毅展関連 講演会「スペインの昨今」 講師:逢坂剛(作家)	7月23日(土)	1回	中学生以上	未定
4	磯江毅展関連 講演会「孤高の画家・磯江毅」 講師:木下亮(昭和女子大学教授)	9月24日(土)	1回	中学生以上	未定

II) 美術講座 (美術に関する知識を学ぶ)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	美術史 講師:未定	9～10月	2回	中学生以上	各回50名
2	日本画実技 講師:未定	11月	1回 (2日間)	中学生以上	15名
3	立体実技 講師:保井智貴(作家)	1月	1回	中学生以上	15名
4	おでかけ美術館 講師:当館学芸員	3月(土)	1回	小学4～6年生	10名

III) 美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	四季のみじたく シリーズ⑨夏のみじたく 講師:西本良太(木工作家)	7月17日(日)	2回	小学4年生以上	各回15名
2	四季のみじたく シリーズ⑩秋のみじたく 講師:石倉まきこ(古道具屋)	9月(土)	1回		15名
3	四季のみじたく シリーズ⑪冬のみじたく 講師:nido(ステンドグラス)	11月(土)	1回		15名
4	四季のみじたく シリーズ⑫春のみじたく 講師:未定	3月(土)	1回		15名

IV) その他

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員・参加人数
1	キャッチフレーズ、ロゴ・マーク導入記念シンポジウム 「キャッチフレーズ、ロゴ・マークのいま」 パネリスト:葛西薫、ナガクラトモヒコ、古居利康	5月13日(金) 16:00～17:30	1回	中学生以上	49名
2	ベルデ軽井沢での1泊2日ワークショップ 講師:大小島真木(作家)	9～10月	1回 (2日間)	小学3～6年生+保護者	15組

学校関連事業

I) スクールプログラム パンフレットを作成し各学校に配布。

- ① 団体鑑賞 A=美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行う B=教諭が美術館にて授業を行う
- ② 施設見学 各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設全体を紹介する
- ③ 職場体験 受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える
- ④ ミュージアム@スクール 美術館担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会について授業を行う。

II) ティーチャーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。各日ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。

平成22年度は5回開催する。

	展覧会名	開催予定日	時間	参加人数
1	プラットフォーム展2011	4月19日(火)	15:30～	17名
2	磯江毅展	7月12日(火)		
3	松岡映丘展	10月18日(火)		
4	中村正義展	2月21日(火)		

III) スクールミュージアム ※スクールプログラム④で使用予定

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行う。これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成された。

今後の展覧会について（次年度開催希望事業予定）

「鹿島茂コレクション 2 バルビエとラブルール」展（仮称）

○平成 24 年 4 月 8 日（日）～6 月 3 日（日）

平成 23 年度より鹿島茂氏（1949-／明治大学教授）の古書コレクションから連続的に展覧会を開催している。第 1 回目は、19 世紀フランスを代表する挿絵画家、J.J.グランヴィルを紹介、第 2 回にあたる本展では、共にフランス、ナント出身で、アール・デコを代表するイラストレーター、ジョルジュ・バルビエ（Georges Barbier, 1882-1932）とジャン＝エミール・ラブルール（Jean-Emile Laboureur, 1877-1943）の作品群をほぼ網羅し、対照的とも言えるスタイルのイラスト世界を紹介する。

共催：読売新聞社 後援：フランス大使館

「品川工 回顧」展（仮称）

○平成 24 年 6 月 8 日（金）～7 月 8 日（日）

生前区内に在住し 2009 年に亡くなった品川工（1908 年新潟生まれ）を、没後 5 年にあわせて展覧する。当館では「＜現代美術の手法＞メディアと表現—品川工・山口勝弘展」（1996 年）、「＜特集展示＞生誕 100 年記念 品川工の版画」（2008 年）と企画展を開催しているが、今回は没後に遺族から寄贈された 109 点の中からセレクトし紹介するものである。とくにモバイルやオブジェなど遊び心にあふれた作品を、版画の代表作とともに展示する。

「生誕 100 年 船田玉樹展」

○平成 24 年 7 月 15 日（日）～9 月 9 日（日）

船田玉樹（1912～91）は広島県出身の日本画家。昭和初期に上京して速水御舟に師事。御舟没後の昭和 10 年以降は小林古徑に指導を受けた。一方、昭和 13（1938）年結成の「暦程美術協会」に創立会員と参加し、岩橋永遠や丸木位里らと抽象表現などを取り入れた前衛的 日本画運動を推進。戦後は、日本美術院（院展）から新興美術院に移籍するが、まもなく広島に隠棲して作画三昧の生活を送った。その作品は岩絵具や墨を主体にしながらも「日本画」の枠にとらわれず、実にさまざまな創作を展開した。広島県立美術館との共同研究をもとに暦程時代の初期作品をはじめ、琳派的な屏風絵、水墨による抽象作品から河童絵、油彩画やガラス絵など約 150 点を公開し、画家の生誕 100 年を機にこの特異な画家の全貌に迫りたい。

（共催：朝日新聞社予定）

「棚田康司展」(仮称)

○平成 24 年 9 月 16 日 (日) ～11 月 25 日 (日)

彫刻家、棚田康司の回顧展を開催する。棚田の作品は、独特の表情を浮かべた子どもの像で知られている。モチーフとして子どもの姿が登場するのは 2001 年、翌年には現在に繋がる作風へと変貌。少しずつ変化を加えながら、今日まで続いている。これまで一貫して「人間」を、そして「子ども」を彫り続ける棚田の一連の作品群を、新作、及び制作過程のスケッチなども含め網羅的に紹介する。伊丹市立美術館へ巡回予定。

(共催：日本経済新聞社予定)

「木工の人間国宝 大坂弘道」展

○平成 24 年 12 月 1 日(土)～平成 25 年 2 月 11 日(日)

大坂弘道 (1937 生) は人間国宝に認定された練馬区在住の木工芸作家である。氷見晃堂 (人間国宝) に唐木指物などの木工技法を学んで研鑽を積み、昭和 55 年に宮内庁から正倉院御物の模造を委嘱され、調査・研究、試行錯誤を重ね、ついに昭和 61 年「紫檀木画箱」の復元模造を完成、正倉院に納めている (2 点製作し、内 1 点は練馬区美術館に寄託)。黒柿や紫檀、黄楊を使い、王朝風のクラシカルなスタイルを守りながらも、透かし彫りや金属象嵌など新しい技術や復元された技法を駆使して、細密かつ多彩な木工芸の世界を展開している。このたび 40 数点が当館に寄託されたことを記念して、大坂の 35 年に渡る軌跡を一堂に紹介するものである。

「超然孤独の風流遊技 小林猶治郎展」

○平成 25 年 2 月 17 日～4 月初旬

若くして胸をわずらった小林猶治郎(こばやし・なおじろう：1897-1990 年)は 20 歳までの命と宣告され、好きな絵を描く人生を選ぶ。牧野虎雄に師事し、1933 年からは旺玄会展を中心に発表。その画風は未来派、キュビズム、表現主義風と変化する。医師の言葉に反し飄々と 93 歳で生涯を閉じるまで、児童画教育にも尽力した。戦後、練馬に構えた自宅兼画室に残されていた作品を調査し、没後初めてその画業を紹介する企画展となる。またあわせて富田有紀子 (1958 年生まれ/猶治郎・孫) の小企画展示を同時開催する。

(共催：読売新聞社予定)

練馬区立美術館キャッチフレーズおよびロゴ・マーク作成について

練馬区立美術館の開館 25 周年を記念して、「練馬区立美術館」のブランドづくりの一環として、練馬区立美術館のキャッチフレーズ、ロゴ・マークの作成を行った。

1 作成の理由

練馬区立美術館は、近・現代の美術作品を中心に、斬新な視点・大胆な切り口で新たな美の知見を広げ、独自性を追求しながら、美の「鑑賞・発表・制作」という美術館の機能を最大限に発揮するよう活動を行ってきた。

今後、美術館をさらに充実させ、「より多くの区民や美術ファンに愛される美術館へ」というメッセージをアピールするため、美術館の開館 25 周年を機に、キャッチフレーズ、ロゴ・マークを作成した。

2 キャッチフレーズの作成

(1) 作成方法

キャッチフレーズ作成委員会（以下「作成委員会」という。）が案を作成し、教育委員会で決定した。

(2) 作成委員会

委員長	美術館運営協議会会長	栗津	則雄
委員	美術館運営協議会副会長	高橋	幸次
	美術館運営協議会委員	大橋	皓也
	コピーライター	古居	利康
	教育長	菌部	俊介
	生涯学習部長	郡	榮作
	美術館長	若林	覚

(3) キャッチフレーズ

「ときめきの美 いま 練馬から」

3 ロゴ・マークの作成

(1) ロゴ・マークの公募および選定

作成されたキャッチフレーズを体現するロゴ・マークデザインを、区内在住・在勤・在学者を対象に、平成 22 年 12 月 21 日（火）～平成 23 年 2 月 4 日（金）の期間で公募した。

58 人、126 点の作品の応募があり、平成 23 年 2 月 23 日開催のロゴ・マーク選定委員会で、最優秀作品 1 作品、優秀作 3 作品を選定した。

(2) 選定委員会

委員長	美術館運営協議会会長	栗津	則雄
委員	美術館運営協議会副会長	高橋	幸次
	美術館運営協議会委員	大橋	皓也
	デザイナー	葛西	薫
	デザイナー	ナガクラ	トモヒコ

教育長	菌部 俊介
生涯学習部長	郡 榮作
美術館長	若林 覚

(3) 選定作品 (別紙1)

最優秀作	和久井 遥	日本大学芸術学研究科在学
優秀作	林 真道	小竹町在住
〃	日野 将志	東大泉在住
〃	川嶋 健三	光が丘在住

(4) ロゴ・マーク

最優秀作品をベースに、別紙2のとおりロゴ・マークを作成した。

4 キャッチフレーズ、ロゴ・マークの活用

美術館施設の表示 (別紙3) やホームページ、印刷物等に活用。また、ロゴ・マークを使用したグッズを開発し販売する。

最優秀作



新しい力・若者の展望を、エネルギーを蓄えた種、実としてイメージ
和久井 遥
日本大学芸術学研究科

優秀作



区の花であるツツジを表現。また花びらの形を馬のひづめにすることで、区名の由来と言われる馬を表現。

林 真道	小竹町在住
------	-------



「ねりま」の「ね」の文字をイメージし、「種から発芽し、力強く伸びていく種」の躍動感を表現。

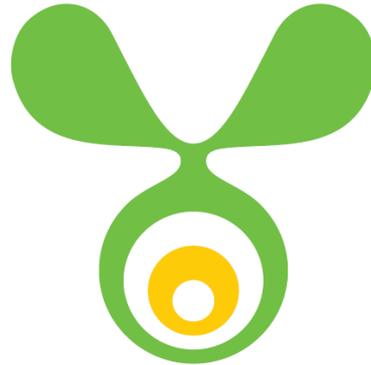
日野 将志	東大泉在住
-------	-------



Nerima Art Museum の頭文字をデザイン化。きらめく光と家族が身近で楽しめる創造と鑑賞のときめきの美を表現。

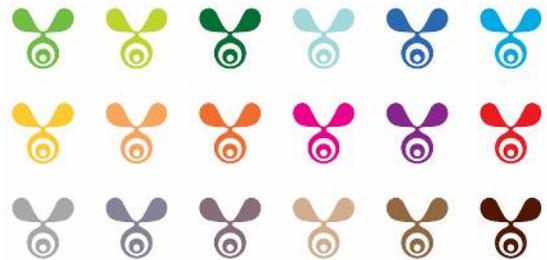
川嶋 健三
光が丘在住

ロゴ・マーク



練馬区立美術館

活用例



館長
若林 覚



練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

176-0021 東京都練馬区實井1-36-16
tel.03-3577-1821 fax.03-3577-1824
museum@city.nerima.tokyo.jp

